No.68
平成23年12月1日

忍郷友会々報

松平忠寿翁書

忍郷友会会報　第六十八号　目次

「二〇一二年を迎えるに当って」……松平　忠昌……1
平成23年度　定時総会報告……小山　博……2
「財団法人　忍郷友会とは…」……4
平成22年度　事業報告……5
収支決算書・貸借対照表……8
忍郷友会役員名簿……9
第26回　浮き城のまち行田
「少年の主張大会」……瀬山　文孝……10
忍郷友会会長賞作品①……新井　怜……10
忍郷友会会長賞作品②……岩崎　里衣……11
読書推進運動について……大野　年司……13
進脩塾活動について……田代　敬二……14
平成23年度　会員名簿……16
平成23年度　事業行事経過メモ……17
特別寄稿　藩学余香……栗原　文蔵……20
東日本大震災で考えたこと
津波警報と避難指示の難しさ……宮川　公男……21
ヨーロッパドライヴの薦め……鈴木　秀憲……22
「ゼリーフライ」を行田の資源に……田島　博夫……25
未来を伝えよう！ふるさとの自然……橋本　恭一……26
俳句・短歌・川柳……27
コラム……29
御名刺掲載欄……30
編集後記……黒渕　陽夫……33

二〇一二年を迎えるに当って

財団法人忍郷友会
会長　松平忠昌

平成二十三年三月十一日に発生しました東日本大震災は未曾有の出来事であり、不幸にして亡くなられました方々に衷心より哀悼の意を捧げたいと存じます。また、被災されました方々や避難を余儀なくされています方々にも、衷心よりお悔やみを申し上げます。当会の会員、ご家族やご縁のある方々に大事のない事を祈念致します。

当会は、お陰様で粛々と各事業を熟す事が出来ており、これも偏に会員各位の揺るぎのない郷土愛と献身的な奉仕の精神に支えられたものと感謝申し上げる次第であります。明治三十八年（一九〇五年）の発足以来一〇七年の歴史を誇る全国でも比類のない財団法人として、活動の柱を国や行田の宝である青少年の教育を支援することに置きつつ、これからも人材育成の為の草の根運動を更に展開して参りたく考えます。

しかしながら、当会の抱えております課題も少なくない状況にあり、その幾つかを列挙してみますと、次の様になると思います。

1. 法人制度改革に伴う法人格移行と定款及び組織整備：
   (1) 管轄官庁との調整が遅れており、平成24年度に申請手続きを行う事になります。
   (2) そのための準備として現行の「寄附行為」を「定款」に改め、組織の見直しを行うと共に会員の総意を確認させて頂く必要があります。
2. 会員の増強と事業活動の継続・強化。
3. 藩校サミットへの取り組み：
   (1) 平成二十六年七月開催予定に変更あり。
   (2) それに向けて様々な企画・準備を推進する必要があります。
   (3) 郷土行田市を全国に紹介する良い機会でもあり、会員各位のご支援とご協力をお願いする次第であります。

さて、今の日本人、日本国と社会は歴史に裏打ちされた伝統的な美風を失い、若人はその精神を荒廃させるに任せ、自身喪失の状態にあるように見受けます。

斯かる風潮に歯止めを掛け、少しでも改善を求め、自己を取り戻して貰うには目新しい事に走り、他人や周囲の動きに任せるのではなく、古き良き文化と伝統に立ち返って、歴史と古典にその知恵に学ぶことが重要になると思います。

継続する事業については、「少年の主張大会」、「読書推進」、及び「進脩塾」（素読教室、論語講座）の実施を中心に、中断しておりました「三端懇話会」復活を検討して参りたいと考えます。

一方、新たな取り組みとなった行田市による「藩校サミット」の招聘が、平成二十六年七月に変更されましたことをご報告します。具体的な活動や事業展開についての論議はこれからになりますが、行田市を全国に知らしめる活動として、当会も市に協力を惜しまない考えで参りたいと考えます。

また、「のぼうの城」の映画も東日本大震災の影響もあり、平成二十四年十月封切りとなりましたが、これからの行田市は世間の注目を浴びる存在になる訳であり、期待して頂きたいイベントと考えます。

教育に関しても、政策の改革に伴う地方自治体への展開が不透明でありますので、当会は出来得る支援を継続する事とし、関連する事業を続けて参りたいと考えます。

他方、当会を取り巻く環境は激変しており、国内政局は野田政権に交代して、経済、外交を含めた政策運営も混乱・混迷を引き摺っているように感じます。引続く景気の低迷、東日本大震災の復興を含めた国内の不安要因、海外では「中国問題」、「北朝鮮問題」、「ロシア政局と外交方針」、「財政危機」、等々があり、日本の齎されている外交や経済環境は厳しく、予断を許さない状況が続くものと見込まれますが、二〇一二年の事業活動としての基本方針は変えることなく、「違いの判る人材を育成する教育への支援」に注力して行きたいと考えます。

この様な変化・変革の多様化の時代こそ青少年の教育・人材の育成が重要課題でありますので、「教育への支援」を軸に、我々は自分達の「出来ること」を着実に推進して、目標であります地元行田から日本や世界に羽ばたく若者を輩出するように活動して参りたいと思います。

来る二〇一五年には当会の創立一一〇周年の節目を迎える事になり、これからの三年が大変に重要でありますので、当会の活動・目標を十分にご理解頂き、本年も引続き宜しくご指導・ご鞭撻賜りますようにお願い申し上げます。

平成二十三年度 定時総会報告

事務局長　小山　博

平成二十三年六月十九日(日)午後二時より行田市内アイトピアにおいて、総会及び懇親会を開催。総会に先立ち、清水龍男理事の司会により、評議員会、理事会を開き、評議員五十一名（内委任状六名）理事十八名（内委任状三十一名）が出席、両会議とも成立した。

会議は寄附行為第十七条二項の規定に基づき、松平議長により議事が進行された。審議に先立ち、評議員会議事録署名人に新井啓介氏、大谷純一氏、理事会議事録署名人に大野年司氏、清水龍男氏を指名、それぞれ議事録署名人を受託した。

審議に入り、「第一号議案　平成二十二年度　事業報告」「第二号議案　平成二十二年度　収支決算報告」について、小山事務局長が内容を説明、引き続き、岩崎安祐氏が監事を代表して監査報告がなされ、松平会長が承認について諮り、審議の結果、全員異議なく本案はそれぞれ可決承認された。さらに、「第三号議案　理事・監事選任」について、小山事務局長より、別紙「役員改選案」（平成二十三年六月～二十六年六月、任期三年）について説明が行われた。

松平会長以下の役員選任案は、全員異議なく満場一致で選任された。

続いて、「第四号議案　東京支部事務所設置」について審議、東京支部事務所は五月一日付で、宗教法人天眼寺に置くことが提案され、全員異議なく、本議案は承認可決され、以上をもって会議は終了し、議長は閉会を宣言した。

休憩を挟み、午後三時三〇分より、総会が矢澤大和理事の司会により開会された。開会に先立ち、矢澤理事より物故会員のご冥福を祈りたいという発言により、全員一同起立し、心より黙祷を捧げた（物故会員　高橋貞雄様）。

会議は、松平会長が議長席に着き、議事を進行、小山事務局長から同日開催された評議員会、理事会の審議内容、承認事項等会務報告がなされ、引き続き、各事業委員長より、それぞれの事業報告が配付資料に基づき、説明された。

このあと、来賓として、行田市長代理　丸山綱男教育長、行田市議会議長　吉田幸一様、行田市教育委員長　岸田昌久様よりお祝辞を頂いた。

新法令2件収録，主要法令にも重要改正多数
ポケット六法
収録法令186件　平成24年版　定価1890円(税込)
[編集代表] 江頭憲治郎 小早川光郎 西田典之 高橋宏志 能見善久

非訟法・家事法新収録／民法・民訴法・刑法等の重要改正に対応
有斐閣判例六法 Professional　平成24年版　定価5565円(税込)
[編集代表] 江頭憲治郎 小早川光郎 西田典之 高橋宏志 井上正仁 能見善久

有斐閣判例六法　平成24年版　定価2730円(税込)
[編集代表] 井上正仁

有斐閣 電子書籍　条文と判例をいつでも手軽に「読書する」
判例六法 Reading　詳しくはホームページへ

代表取締役社長　江草貞治
株式会社 有斐閣
since1877
東京都千代田区神田神保町2-17
代表 03-3264-1312　FAX03-3264-5030

第二部　記念講演会

「国難を乗り越え新時代を築いた忍藩主たち」

講師　埼玉県教育委員会学芸主幹
（財）忍郷友会　会員　若松良一

司会　山本憲作理事により、午後四時三〇分より、副会長　渡邉栄一理事の講師紹介により開会。講演内容の目次のみ、次に記す。

①歴史の変革期に生きて
②異国船の渡来と開国へのうねり
③打ち続く天災と人災
④天狗党と武州一揆
⑤御所警備と鳥羽伏見の戦い
⑥清雲寺事件
⑦忍藩の兵制改革
⑧藩論の統一と奥羽戦争従軍
⑨最後の武士の戦い～西南戦争～
⑩国難に殉じた人　乗り越えた人

最も興味があったのは、次の通りである。

『忍藩奥羽戦争従軍期』慶應四年（一八六八年）三月四日、旧幕府脱走軍衝鋒隊総督　古屋作左衛門ら八五四人が城下に来て、援助を求める。この中には、忍脱藩士の⑪永井蠖伸斎と⑫明石泰三がいた。また、彼らに同調して新たに合流した忍藩士冨永安之助と尾崎卯三郎がいた。

熊谷宿にある官軍との板挟みに窮した忍藩は、岸嘉右衛門が藩医久河道伯をして軍資金六〇〇両余と草鞋千足を与えさせ、七日夜明け前に退去させた。九日、羽生陣屋に藩兵を憩わせていて、官軍に脱走軍の応援を疑われた丹羽蔀が割腹自殺を遂げる。慶應四年（一八六八年）三月十一日、官軍鎮撫使の軍使として参謀楢崎頼三ら三人が忍城に入る。岸嘉右衛門が折衝に当り、鳥居強右衛門が誓書を提出の上、糧食三千俵と表銃隊・撤兵隊を官軍に預ける。慶應四年（一八六八年）三月十四日、江戸城無血開城のため、西郷隆盛・勝海舟が第二回会談を行う。

歴史を語る人はいるが、行田の変革期の様子をこんなに詳しく語れる人は少ないであろう。大変な感銘を受けた。

（文責：小山　博）

第二部　懇親会

今回の懇親会は、歌手二期会会員青柳有香子さん（会員　青柳憲助様のご令嬢）のソプラノを楽しみにしていましたが、三月十一日の東日本大震災により、自粛すべきだとの声が高まり、今回は静かな懇談のみの懇親会を目指した。しかし、アトラクションなしでも、あちこちで会話が盛り上がって、大変楽しい懇親会となり、事務局はほっと胸をなでおろした次第である。

懇親会に先立ち、衆議院議員　本多平直様、行田商工会議所会頭　小川雅以様より祝辞を頂き、埼玉県議会議長　鈴木聖二様は、奥様が代理出席下さいましたので、ご紹介いたしました。阿部正靖特別会員（阿部家二十二代ご当主）の乾杯の音頭で歓談に入り、十九時四十分、すべて終了した。

（文責：小山　博）

財団法人 忍郷友会とは・・・

創立

明治四年（一八七一年）の廃藩置県で東京を初め全国に散った旧忍藩士の人達八十名が、明治三十八年（一九〇五年）十月二十二日東京向島百花園に集まり、郷友親睦の会として発会式が行われたのが本会の始まりであります。

同年十二月六日には、旧藩主嗣子松平忠壽少尉の日露戦争凱旋祝賀会が盛大に開催されて、本会の基礎が固まり、会報第一号が刊行されました。

その会報には、「旧藩士族ノミニ」とどまらず「士農工商ノ別ナク婦人女子ヲ併セテ」会員とする旨の記載もあり、士族のほか忍に所縁の一般の人達も参加して、交流を深めることとなり、会員相互の親睦、個人の知徳の涵養を目指しながら、最初は東京に遊学する忍町の学生を援助する等、後継者の育成と郷土の文化発展にも意を尽くして年月を重ねてきています。

財団法人の認可

昭和十年の創立三十周年大会以後は、それまでの幹事制から会長制に替わり、林頼三郎法学博士を会長に、松平忠壽貴族院議員を名誉会長に選び、その後昭和昭和十三年に文部省（現文部科学省）より、「教育活動を行う財団法人」として認可を受け、今日至っています。

全国的に見ても郷友会という名前の組織は各地にありますが、法人格を有しているものは、今もほとんどないと聞いており、ユニークな会と云えます。

現在の会長は、（奥平）松平忍家十六代の松平忠昌氏です。

会員

本会は明治、大正、昭和、平成の大きな歴史的な試練にもめげずに活動を続けており、創立百周年を超えるに至っています。会員の延べ人数は数千人を数えるになり、その方々の活躍の場は、政界、官界、法曹界、経済界、学界、美術芸能、（戦前の）軍部など多岐に亘っています。創立後一世紀、忍郷人として誇り高く生きてきた郷土を愛する人々の集まりです。

何処にいても、いつも行田のことが忘れられない人々の集まり、それが「忍郷友会」で、現在の会員数は二百三十余名です。

目的と事業

今も尚、先人の遺志を受け継ぎ、行田地方を中心に東京、川越など国内県内外の会員有志に支えられて、従来からの会員相互の親睦、知徳の涵養と人格の向上を図りながら、併せてこれからの地域社会や国家に役立つリーダー後継者の人材育成を目的に、社会教育事業と学校教育の支援事業を行っています。本会の目指す究極の人間像は「確かな知識を持ち、郷土を愛する高い倫理観と品格を備えた人」です。

平成二十二年度 事業報告

1、会議

(1) 総会

① 定時総会開催

（会務報告、講演会・懇親会）

日　時　平成二十二年六月十三日(日)
　　参加者八十四名
　　午後二時～八時

会　場　行田市・ベルヴィアイトピア

来　賓
　人事院総裁　江利川　毅様
　行田市副市長　羽鳥　利明様
　行田市議会議長　大河原梅夫様
　埼玉県議会議員　鈴木　聖二様
　衆議院議員本多平直秘書　小池　厚様
　行田市教育委員長　保泉　欣嗣様
　行田市教育長　丸山　綱男様
　行田商工会議所名誉会頭　清水　孝男様
　行田商工会議所会頭　鈴木　秀憲様
　行田商工会議所副会頭　川辺　秀夫様
　行田ロータリークラブ会長　冨田　久雄様
　行田さくらロータリークラブ会長　新井　啓介様
　行田青年会議所理事長　新井　重人様
　忍藩主阿部家二十二代当主　阿部　正靖様

松平忠昌議長より平成二十一年度の事業および決算、監査について報告があった

記念講演
「四十年の会社生活を振り返って」
～グローバルビジネスの中で～
講師　小林　邦雄様
元㈱ルネサステクノロジー
常務取締役

懇親会・アトラクション
牧川修一・典子～時は歌ともに～
唱歌からオペラまで

松平忠昌議長より平成二十二年度の事業計画および予算について報告があった

② 定時総会開催

（会務報告・賀正会）

日　時　平成二十三年一月二十二日(土)
　　参加者六十名

会　場　霞会館(霞ヶ関ビル三十四階)

来　賓
　行田市副市長（市長代理）　羽鳥　利明様
　行田市教育委員会委員長　岸田　昌久様
　生涯学習部ひとつくり支援課長（教育長代理）　森　光弘様
　行田商工会議所名誉会頭　鈴木　秀憲様
　行田商工会議所会頭　小川　雅以様
　本多平直衆議院議員秘書　谷口　真弓様
　ものつくり大学学長　神本　武征様
　旧忍藩主阿部家二十二代当主　阿部　正靖様
　行田青年会議所理事長代理　羽賀　烈様

松平忠昌議長より平成二十三年度の事業計画および予算について報告があった

懇親会・アトラクション
琵琶奏者演奏
藤野　泰司様

(2) 役員会

① 理事・監事合同準備会

日　時　平成二十二年四月二十二日(木)
　　午後三時～四時三十分

会　場　行田本部事務所　会議室

審議事項
1　平成二十一年度事業報告書（案）について審議
2　平成二十一年度収支決算書（案）について審議
3　平成二十一年度の事業・決算に係わる監査
4　平成二十二年六月十三日(日)総会開催について
5　その他

定時総会日に開催される理事会・評議員会に提案する審議事項並びに総会報告事項の決定、総会の運営進行等について打ち合わせ

②評議員会、理事会

日　時　平成二十二年六月十三日(日)
　　午後二時～三時二〇分
会　場　ベルヴィアイトピア
審議事項
1　平成二十一年度の事業報告がなされ審議・承認
2　平成二十一年度の決算報告がなされ審議・承認
3　平成二十一年度の事業に係わる監査について報告され承認
4　その他

③理事・監事会

日　時　平成二十二年九月十七日(金)
会　場　行田本部事務所　会議室
審議事項
1新法に基づく忍郷友会の対応について
　A新しい定款(案)の審議
　B資金計画と役員構成について
　C東京支部拡大について
2平成二十三年一月賀正会について
3藩校サミット(準備)について
4漢文検定試験について
5その他

④理事・監事合同準備会

日　時　平成二十二年十一月十七日(水)
　　午後三時～五時三〇分
会　場　行田本部事務所　会議室
審議事項
1平成二十三年度事業計画(案)について
　A「進脩塾」事業計画案について審議
　B「浮城のまち行田少年の主張大会」事業計画案について審議
　D「読書推進実行委員会」事業計画案について審議
2平成二十三年度予算(案)について審議
3平成二十三年一月の理事会・評議員会、総会・賀正会の日程について
　小山博事務局長より平成二十三年一月二十二日(土)に開催したいとの提案があり審議
4その他

⑤評議員会・理事会

日　時　平成二十三年一月二十二日(土)
　　午後三時～三時五〇分
会　場　霞会館(霞ヶ関ビル三十四階)
審議事項
1平成二十三年度事業計画(案)を審議・承認

2平成二十三年度収支予算書(案)を審議・承認
3平成二十三年六月の定時総会日程について
4その他報告事項

2、教育奨励事業

①進脩塾活動

目的　私たちが戦後失ってしまった日本人の美質・義・敬・恥・信とか正直・勤勉・親切・謙虚・素直・感謝といったものを経書を学ぶことによって取り戻し、精神文化の興隆に寄与することを目的に運営されている。

公開講座
第七回「行田市漢字文化講演会」と「素読教室発表会」
日　時　平成二十二年八月二十八日(土)
　　午後一時三十分～四時
会　場　行田市商工センター大ホール
講　師　村山　吉廣　先生
　『進脩館を支えた教授陣と、はばたいた俊秀たち』
受講者　一三〇名

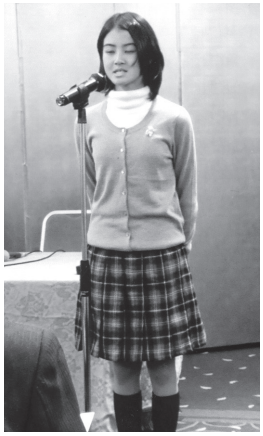
定例講座
四　月　「孟子」　荒井　桂　先生
五　月　「孟子」　荒井　桂　先生
八　月　「行田市漢字文化講演会」　村山吉廣　先生
九　月　「孟子」　荒井　桂　先生
十　月　「孟子」　荒井　桂　先生
十一月　「孟子」　荒井　桂　先生
二　月　「孟子」　荒井　桂　先生
※行田ケーブルテレビにて放映
（内容）進脩塾の目的、講義、受講者の感想、今日の論語から

素読教室の開催
日　時　毎月第一、第二、第三土曜日
　　午前九時三十分～十一時三〇分
場　所　行田市郷土博物館　講座室
対　象　行田市内低学年児童（四歳～八歳迄）二十八名
講　師　田代敬二、奥田七寿、川田隆生先生
内　容　論語・漢詩・古事記の学習

漢文検定試験の実施
日　時　平成二十二年十二月四日(土)
場　所　行田市郷土博物館講座室
受検者　二十六名（寺子屋の部初級、中級、上級）

②「第二十五回・浮城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰

目的　次代を担う青少年の健全育成を図るために、行田市教育委員会・青少年育成行田市民会議が主催する「浮き城のまち行田少年の主張大会」を後援・支援する。
日　時　平成二十二年十一月十四日(日)
会　場　行田市教育文化センター「みらい」ホール



発表者　市内小・中学校児童・生徒、父兄等二百五十名参加、本会、松平忠昌会長より記念品を贈呈した。

③第10回「三端懇話会」

目的　行田市に縁故を有する青少年を、国又は地域社会に貢献する人材に育成するため、国を代表するような一流人物と懇談会食する機会を与え、啓発発憤の場とすることを目的に開催されている。

日　時　平成二十二年八月二十三日(月)

会　場　東京霞ヶ関ビル三十四階霞会館

講　師　小野田寛郎氏(元陸軍少尉)

聴講者　行田市内の中・高校生二十名参加

本会から、松平会長、田代、山本、矢澤、清水各理事他9名が出席された。

④第9回読書推進学習会

目的　読書は子供の成長の糧である。本を読むことの動機づけは本に親しむことからである。大人が読み聞かせることにより子供達は本に親しむようになる。その読み手の技能と優しい心を大きく育てる事業を読書推進活動として行っている。

読み聞かせボランティアスキルアップ講座と交流会

「子どもの心に灯をともすわらべうた」

～わらべうたからお話へ～

日　時　平成二十三年二月二十七日(日)　午後一時三十分～四時

会　場　VIVAぎょうだ二階学習室

講　師　落合美知子先生（児童図書研究家）

受講者　六十三名

3、運営会議開催

第一回

日　時　平成二十二年十月二十七日(水)　午後五時～七時

場　所　本部会議室

議　題　1各委員会の進捗状況報告
2忍郷友会だより発行について
3藩校サミットについて
4その他

第二回

日　時　平成二十三年二月十五日(火)　午後六時～八時三十分

場　所　本部会議室

議　題　1新定款の検討
2細則の大枠(役員案の検討)
3東京支部の進捗状況
4六月総会の準備日程について
5その他

4、慶　弔

①叙勲・褒章受章

旭日小綬章　渡辺　邦道　様

②お悔やみ申し上げます

岩崎　利一　様（平成二十二年五月十日ご逝去）

萎沢　伸浩　様（平成二十二年八月七日ご逝去）

小池　英輔　様（平成二十二年十月七日ご逝去）

森田純之助　様（平成二十二年八月二十五日ご逝去）

5、会員増強対策

(1)新入会者紹介（敬称略入会順）

紹介者（渡邉栄一）

・小林　秀樹
鴻巣市境二一一―イ号
埼玉新聞社代表取締役社長

・岡　　隆史
小田原市中里四〇九―五

・鈴木敬一郎
行田市押上町一二―一　コスモ行田四〇五
㈱鈴木測量設計専務取締役

社会福祉施設
教育・文化施設
オフィス・工場
店舗・商業施設
耐震補強
建物リニューアル
技術と環境の未来を見つめて
小川工業株式会社
埼玉県行田市桜町1-5-16　TEL.048-554-4111

法人名：財団法人　忍郷友会　事業名：事業全体　自 平成22年4月 1日 至 平成23年3月31日 決算

収支計算書

(単位：円)

科　目	予算額	決算額	差　異
Ⅰ　事業活動収支の部			
1．事業活動収入			
①　基本財産運用収入			
基本財産配当金収入	200,000	225,893	25,893
②　会費収入			
正会員会費収入	1,650,000	1,774,000	124,000
③　事業収入			
総会事業収入	1,000,000	1,196,000	196,000
進脩塾事業収入	1,120,000	968,136	-151,864
④　寄付金収入	10,000	70,000	60,000
⑤　雑収入	250,000	335,875	85,875
⑥　他会計からの繰入金収入			
積立基金取崩収入	1,160,000	0	-1,160,000
事業活動収入計	5,390,000	4,569,904	-820,096
2．事業活動支出			
①　事業費支出			
総会事業支出	1,400,000	1,457,942	57,942
会報発行事業支出	270,000	253,745	-16,255
進脩塾事業支出	970,000	968,136	-1,864
少年の主張大会支援事業支出	250,000	255,076	5,076
三端懇話会事業支出	600,000	532,968	-67,032
読書推進支援事業支出	50,000	50,000	0
通信運搬費支出	280,000	245,111	-34,899
消耗品費支出	120,000	64,513	-55,487
雑支出	130,000	174,545	44,545
事務所賃借料支出	420,000	382,007	-37,993
租税公課支出	0	0	0
慶弔費支出	80,000	0	-80,000
その他事業支出	150,000	130,000	-20,000
②　管理費支出			
事務職員給料支出	600,000	840,000	240,000
会議費支出	150,000	83,109	-66,891
旅費交通費支出	20,000	4,000	-16,000
事業活動支出計	5,490,000	5,441,152	-32,848
事業活動収支差額	-100,000	-871,248	771,248
Ⅱ　投資活動収支の部	0	0	0
Ⅲ　財務活動収支の部	0	0	0
Ⅳ　予備費支出	100,000	0	100,000
当期収支差額	-200,000	-871,248	-671,248
前期繰越収支差額	4,880,000	6,153,423	1,273,423
次期繰越収支差額	4,680,000	5,282,175	602,175

(注) 予備費　使用せず

財産目録

(単位：円)

科　目		金　額
Ⅰ　資産の部		
1．流動資産		
現金預金		
現金手許有高		13,683
普通預金	埼玉りそな銀行 行田支店 4187540	987,488
	埼玉りそな銀行 行田支店 4085314	2,587,395
郵便貯金	(00120-2-48444)	365,644
流動資産合計		3,954,210
2．固定資産		
(1)　基本財産		
投資有価証券		5,200,218
基本財産合計		5,200,218
(2)　特定資産		0
(3)　その他固定資産		0
固定資産合計		5,200,218
資産合計		9,154,428
Ⅱ　負債の部		
負産合計		0
正味財産		9,154,428

有価証券の内訳

内訳：　東京電力株式　1,983株　(内登録株　19株)
　　東京瓦斯株式　11,253株

支出の部の内訳書

(単位：円)

科　目	予算額	決算額	差　異
事業費			
(総　会　費　用)	1,400,000	1,457,942	57,942
(会　報　発　行)	270,000	253,745	-16,255
(進　脩　塾)	97,0000	968,136	-1,864
(少年の主張支援)	250,000	255,076	5,076
(三端懇話会支援)	600,000	532,968	-67,032
(読書推進支援)	50,000	50,000	0
小　計	3,540,000	3,517,867	-22,133
その他事業費	150,000	130,000	-20,000
慶弔費	80,000	0	-80,000
一般管理費			
(通信運搬費)	280,000	245,111	-34,889
(事務用品費)	120,000	64,513	-55,487
(交　通　費)	20,000	4,000	-16,000
(送金手数料)	30,000	31,700	1,700
(雑　費)	100,000	142,845	42,845
小　計	550,000	488,169	-61,831
会合費	150,000	83,109	-66,891
事務所賃借費	420,000	382,007	-37,993
業務職員給与	600,000	840,000	240,000
租税公課	0	0	0
積立基金取崩支出	0	0	0
予備費	100,000	0	-100,000
合　計	5,590,000	5,441,152	-148,848

貸借対照表

(単位：円)

科　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産			
現金預金			
現金	13,683	12,269	1,414
普通預金	3,574,883	3,715,945	-141,062
郵便貯金	365,644	1,097,244	-731,600
流動資産合計	3,954,210	4,825,458	-871,248
2．固定資産			
(1)基本財産			
投資有価証券	5,200,218	1,327,965	3,872,253
(2)特定資産		0	0
(3)その他固定資産	0	0	0
固定資産合計	5,200,218	1,327,965	3,872,253
資産合計	9,154,428	6,153,423	3,001,005
Ⅱ　負債の部			
負債合計		0	0
Ⅲ　正味財産の部			
1．指定正味財産	0	0	0
2．一般正味財産	5,282,175	6,153,423	-871,248
基本財産評価損益等	3,872,253		3,872,253
正味財産合計	9,154,428	6,153,423	3,001,005
負債及び正味財産合計	9,154,428	6,153,423	3,001,005

平成二十三年度 (財)忍郷友会役員名簿

理事

会長　松平 忠昌
副会長　江草 忠敬
副会長　渡邉 栄一
事務局長　小山 博
理事　碓井 勝也
理事　大野 年司
理事　黒渕 陽夫
理事　清水 龍男
理事　清水 義夫
理事　鈴木 秀憲
理事　田代 敬二
理事　中川 邦明
理事　古市 實
理事　堀 岩夫
理事　宮川 公男
理事　矢澤 大和
理事　山本 憲作

監事

監事　岩崎 安裕
監事　榎本 晃三
監事　大澤 誠
監事　加藤 力也
監事　保泉 欣嗣

名誉理事

名誉理事　佐藤孝太郎
名誉理事　清水 孝男

特別会員

特別会員　阿部 正靖
特別会員　安藤 敬一
特別会員　坂巻 敏夫

評議員

評議員　青柳 憲助
評議員　新井 啓介
評議員　飯塚 利男
評議員　飯田 芳幸
評議員　五十幡和彦
評議員　井上 啓子
評議員　永島 健雄
評議員　江草 祥子
評議員　江原 史郎
評議員　江利川 毅
評議員　遠藤 初枝
評議員　大谷 純一
評議員　岡安 徳一
評議員　小川 雅以
評議員　奥貫 健一
評議員　小澤 誠邦
評議員　川辺 秀夫
評議員　木嶋 清
評議員　木村 義
評議員　木元 紘一
評議員　倉持成一郎
評議員　小池 俊輔
評議員　木暮 照子
評議員　小菅 克祥
評議員　斎藤 準一
評議員　鈴木貞二郎
評議員　瀬山 文孝
評議員　戸ヶ崎直司
評議員　戸塚 義男
評議員　長島 康雄
評議員　西澤 脩
評議員　根岸 仁司
評議員　橋本 恭一
評議員　長谷川雅敏
評議員　東 端芳
評議員　福島 伸悦
評議員　藤倉 浩
評議員　細井 保雄
評議員　松岡 由浩
評議員　松平由美子
評議員　松本 皓一
評議員　武笠 勇
評議員　村賀 英介
評議員　諸貫 健一
評議員　八木原 保
評議員　山田 晃
評議員　横川 福治
評議員　横田 保良
評議員　吉川 正就
評議員　渡邉 久記
評議員　綿貫 守男
評議員　(社)行田青年会議所

幹事

幹事長　中川 邦明
副幹事長　大澤 誠
副幹事長　渡邉 久記
幹事　新井 誠
幹事　飯島 千裕
幹事　五十幡和彦
幹事　内田 善康
幹事　小沢 健一
幹事　川島 亨
幹事　坂田 幸彦
幹事　瀬山 文孝
幹事　長島 豊
幹事　長谷川雅敏
幹事　松岡 由浩

全国藩校サミット開催のお知らせ

第一〇回　水戸市（茨城県）　決定
開催日　平成二十四年二月十八・十九日（土・日）
第十一回　鹿児島市（鹿児島県）決定
開催日　平成二十五年三月九・十日（土・日）
第十二回　行田市（埼玉県）　予定
開催日　平成二十六年七月五・六日（土・日）

快適ガスライフ
サイカン工業株式会社

快適な環境づくりをめざして
(株)清水アーネット

第二十六回　浮き城のまち行田
「少年の主張大会」

少年の主張　副委員長　瀬山文孝

平成二十三年十一月十二日㈯十三時十五分より行田市教育文化センター「みらい」ホールにて、第二十六回浮き城のまち行田「少年の主張大会」が開催されました。

この大会は市内の小・中学校の代表者が日常生活を通して考えていることを市民に発表するもので、青少年健全育成を図るために、行田市教育委員会・青少年育成行田市民会議が主催し、㈶忍郷友会が後援となり毎年開催されているもので、昭和六十一年度の初回から今年まで二十六回目になります。発表者は小学校六年生二十名と中学二年・三年から九名の二十九名の生徒でテーマは自然・家庭・地域社会・環境・平和・将来の夢など力強く発表していただきました。特に本年は「東日本大震災・家族・絆」をテーマに発表される生徒が多かったと感じました。

来賓挨拶の中で当財団の松平会長からは「二十五回という節目の年に参加できるめぐりあわせや、家族・周りの方々に感謝をしてほしい。そしてこれからは何を出来るかではなく、何をしていくかを心がけてほしい。また「志」・「学ぶ」・「愛」という三つの言葉を贈り、日本人としてのプライドを大事にしてください。日々の努力の結果が認められることは自分への勲章である。そして郷土愛の重要性・歴史の価値を話され立派な日本人としてチャレンジしてほしい」と結ばれました。

審査終了後、主催者代表より表彰状を、松平会長より発表者全員に「広辞苑」が贈呈されました。優秀者は次回賀正会にて発表していただきますのでどうぞお楽しみにしてください。

当会からは松平会長・渡邉副会長・小山事務局長・矢沢理事・山本理事・岩崎監事・遠藤事務局の参加をいただきました。

忍郷友会会員向けの来賓席が多数用意されておりましたが空席が目立ち残念でした。

来年は多くの会員の参加をいただければと思っています。是非、子供達の生の発表をお聞き下さい。

忍郷友会会長賞二作品を紹介します

忍郷友会長賞　小学校の部

偉大なる「当たり前」様

行田市立太田東小学校六年　新井怜

「お母さん、今日の夕飯のおかず何？」「目玉焼きハンバーグとポテトサラダ。」「えー、またハンバーグ？」「じゃあ、あんたは目玉焼きだけね。」と、毎日がこんな感じで、仕方なく私は出されたおかずをなんとなく食べていました。あの日までは・・・。

三月十一日午後二時四十六分、震度五強。私は体育の授業で校庭にいました。誰かの「ゆれてる！」という大きな声で、みんなが地震に気付きました。配水管が破裂して校舎は水浸しになり、家では棚から物が落ち、壁紙はひびが入り破れ、私は思わず声を失いました。その日は夜十時ま

で停電が続き、水も出ずトイレにも入れませんでした。

明るいうちに、懐中電灯や携帯ラジオ、電池や使い捨てカイロ、パンや飲み物を集め、まだまだ続く余震の中、兄と母と三人で小さくまとまっていました。しかし、仕事で東京に行っている父とは、何度携帯に電話しても連絡が取れません。外はどんどん暗く寒くなり、ラジオからは悲しいニュースと緊急地震速報が流れます。

真っ暗な中、私はいろいろ考えました。夕方になれば電気を点け、温かい食事をし、お風呂に入る。そんな当たり前の日常が、今は何一つありません。私はなんとおろかだったのでしょう。暗いのと寒いのとこわいのと自分の情けなさで、涙が出てきました。

何度もチャレンジしていた兄の携帯が、やっと父につながりました。無事だが今夜は帰れないと聞き、安心したのとさびしいのとでまた涙が出てきました。

とつ然、パッと電気が点きました。目の奥が痛くなるほどまぶしくて、ギューッときつく目を閉じます。電気が点いただけで、暖かく感じました。母が「ちょっと落ち着こう。」と言って、紅茶を入れてくれました。その紅茶は特別のとっておきの紅茶です。いつもよりおいしかったからそう思いました。

きっといままでと何も変っていません。「ふつう」「いつもの通り」「当たり前」が、こんなにありがたかったことなんだと気付かされました。私はあの日を忘れずに、これからも生きていきたいと思います。

忍郷友会長賞　中学校の部

命を救うという仕事

行田市立長野中学校三年　岩崎里衣

「なんでこんなに頑張れるのだろう?」これは、職場体験初日の感想です。私は、職場体験の職場を行田総合病院にしました。病院を選んだ理由として姉の存在があります。私の姉は、今年薬学部に進学しました。薬剤師として働くという夢の実現のためです。そんな姉の強い志に引っ張られて、「病院の仕事をするとはどんな感じなのだろう?」という好奇心が生じ、職場体験に病院を選びました。

今まで私は、病院の仕事というのは、「きっと気持ちに余裕を持って、人に優しく接することができる、ゆとりのある職場だろう。」と考えていました。でも今回、病院で働くことはなんて大変なんだろう、ということに気付かされました。病院の人達は、ほとんど一日中立ちっぱなしです。最初に参加したミーティングでも、看護師さん達は全員立ったまま、患者さんの申し送りをします。患者さんのオムツ替え、点滴の取り外し、また入浴介助等も、立ちっぱなしで行うのです。若い看護師さんも、ベテランの看護師さんも皆同じです。部活動等で鍛えられていたはずの私達なのに、初日立ちっぱなしに耐えられず、気分が悪くなってしまいました。体力的なこと、それだけではありません。どんな重労働で

も、汚物を片付ける嫌な仕事でも、いつも病院の人達は患者さんや私達には笑顔なのです。とても作り笑いとは思えません。

「この原動力は何なのか？」私は聞かずにはいられませんでした。看護師さんは「疲れよりも患者さんからいただく喜びの方が大きいからかな。」と答えて下さいました。なるほど私も実習で患者さんに言われて胸に温かいものが広がりました。このことを母に話すと、「苦しんでいる人や命が危ない人を目の前にした時、思わずその人を救おうと、まず手が出てしまう。普通の仕事とは違って、人間の根源的な想いが仕事に根底にあるからこそ、どんな苦労や試練にも耐えられるのだと思うよ。」と話してくれました。

もう一つ病院で教わった事、それは、病院は様々な職種の人達がチームになって支えているということです。医師、看護師、薬剤師、理学療法士等、チームで一人の患者さんに向き合います。そしてみんなで協力し合って、患者さんの治療をしていくのです。一人ではなく、仲間と患者さんの為に全力で向き合うこと、そこにも病院で働く人のやりがいの原動力があると強く感じました。

私はこの体験を通して、生命に携わる人達の志の高さ、強さに触れることができました。そして自分もぜひ、将来その輪に加われるようになりたいと思います。そのためには、普段から困っている人がいれば迷わず手を貸すということ、それを実践していきたいと考えています。今までは、恥ずかしがってなかなか手が出せませんでした。でも、もう迷いません。なぜなら、そういう気持ちこそが、生命を救うという仕事の根源なのだということを、この職場体験で学んだからです。そしてその気持ちを大切に、目の前の勉強にしっかり取り組んでいきたいです。

プライミクス株式会社
会長　古市　實
社長　古市　尚
PRIMIX
本社〒553-0001 大阪市福島区海老江八丁目十六番四十三号
電話（〇六）六四五八－七五三〇
ＦＡＸ（〇六）六四五八－七八五〇
東京支社〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目十六－四
埼玉支社〒350-0833 川越市芳野台二丁目八－四〇
名古屋支社〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目九番十六号
工場　淀川・武庫川・埼玉・上海
http://www.primix.jp

小山商事株式会社
会長　小山　博
社長　小山喜一郎
本社　行田市埼玉三三五一
ＴＥＬ〇四八－五五九－四一二(代)
リカリッシュ旭町店
ＴＥＬ〇四八－五五六－三七一一
リカリッシュ大井店（熊谷）
ＴＥＬ〇四八－五五九－四七一一
宝くじ売場持田店
ＴＥＬ〇四八－五五三－四七一一

読書推進運動について

読書推進委員長　大野年司

「子どもの心に灯をともすわらべうた」
～わらべうたからお話へ～

第九回となりました読み聞かせボランティアの皆様向けステップアップ講座を、平成二十三年二月二十七日(日)に、行田市男女共同参画推進センター「ＶＩＶＡぎょうだ」にて開催致しました。

講師に、わらべうたの第一人者であり、児童図書研究家の落合美知子先生をお招きし、ご講演とご指導を頂きました。五十名の定員を超える人氣ぶりで、大変賑やかに、また楽しく和やかな雰囲気のうちに執り行われました。

「子どもの心に灯をともすわらべうた」をテーマに、参加者全員でわらべ歌を歌い、共に手、足を打ち鳴らしたりのご指導で、幼児期に幼児に声をかけたり、触れたりすることの大切さを教えて頂きました。

又、先生は「わらべうたは読み聞かせの原点で、子供の心を豊かにさせる。楽しんで継承して欲しい。」とも語られました。

参加者からは「早速、自分でわらべ歌を練習して実践して行きたい」とか、「次回（第十回）も是非やって欲しい」等と、嬉しいご意見も頂きました。

講師　落合美知子先生

川柳

小沢　誠邦

雑草が探しているよ生きる場所
天災に友が無事かと祈りつつ
寿命伸び大器晩成待つ度量
人間ドック元気な人が受けたがり
腐っても鯛と思った過去の地位
棘のある花にもきっと友がいる
線香を立てて始まる今日がある

進脩塾活動について

進脩塾主幹　田代敬二

失われた日本人の美質を求めて
～進脩塾活動二十一年～

幕末から明治にかけて日本を訪れた多くの外国人が工業化もされておらず、貧しいはずの日本がいかに平和で美しい調和を保った国家であるかを認識して驚いたことはよく知られております。

人々は温和で親切、礼儀正しくて勤勉、譲り合いの精神が高く、年長者に恭敬、弱い者いじめを憎み、正直者が多く泥棒がいない。男女の道は正しく、争いごとが少ないなどとし、当時の日本を指して在日フランス大使となったポール・クローデルは、「彼等は貧しい、しかし高貴である」と語ったといいます。

その美しく気高い風俗、習慣に満たされていた日本が、未曾有の敗戦という現実体験を境にして、一転、功利主義、拝金主義、享楽主義が横行する醜いエコノミックアニマルと化してしまいました。何故なのでしょうか、思うに東京裁判史観に基づく自虐史観の定着と、占領政策の中核をなした“戦争についての罪悪感を日本人の心に植えつけるための宣伝計画”「ウォーギルトインフォーメーション、プログラム」とそれに伴う検閲制度がトラウマとなって占領が終了したのちになっても、日本人のアイデンティと歴史への信頼は、内部崩壊をつづけ六十年の余を経た今日に至るも未だその残滓を背負い、日本古来の美しい精神文化に背を向け、モノ、カネ、の現実的享楽主義を走りつづけているわけです。

ここに天の啓示とでもいうのでしょうか、今回の東日本大震災が発生し、ゆくりなくも被災者の間に、“助け合い、わかち合い、ゆずり合い、思いやりの精神が随所に発揮され日本人の美質が脈々と生きていたことが世界に証明されました。私たち日本人には古来からの「かんながらの道」があります。中世から近世にかけて培い、磨きあげてわがものとした修己治人の学（人の人たるの道）があります。この歴史と伝統にかえり、精神文化を作興することが、日本再生の道に連なると信じまして進脩塾活動を続けているわけです。

今進脩塾では「孟子」を学んでおります。教本は安井息軒のものですが副読本として吉田松陰の講孟箚記とを重ね合わせて読んでおります。吉田松陰は日本精神から読み解き、日本の土壌に合せて極めて今日的な解釈を加えて読む人に課題を提供し、興味津々として尽きぬものがあります。忍郷友会々員諸兄のご来聴を切にお待ち申上げる次第です。

日　時　毎月第四土曜日
　　夜六時～八時まで
会　場　行田商工センター
　　四〇三会議室
講　師　荒井　桂先生（㈶郷学研修所々長）

素読
①忍藩子ども塾　教室として開講

行田市教育委員会と共催

わが忍郷友会素読教室は、平成十七年四月にスタートして以来七年を経過いたしましたが、本年に至り、行田市の教育政策と一致するところがあり、市教育委員会と共催という形に相成りました。

生徒募集は市教委が行い、指導は㈶忍郷友会素読教室が受け持つということとなり、名称も「忍藩子ども塾　素読教室」と呼ぶことになりました。去る七月二十三日㈯午前十時より行田市教育委員会二階会議室において新入児童を迎え、丸山綱男教育長のご挨拶に続き、㈶忍郷友会松平忠昌会長よりご挨拶があり、入塾式が厳粛に行われました。

児童数も大巾に増え、総勢四十七名の大所帯となり、三クラ

丸山教育長のごあいさつ

スに分かれています。新入生も真新しいテキストを手に早速「子曰く～～」と大きな声で何度も何度も繰り返していると、もうすっかり覚えてしまいました。子供の時に諳んじて覚えたものは、一生忘れない宝物です。先輩の在塾生と一緒に活気溢れる論語・漢詩の素読教室が開かれております。

会　場　行田市郷土博物館講座室
日　時　毎月第一、第二、第三土曜日
　上級組　午前九時三十分～十時二十分
　初級組　午前十時二十分～十一時
　中級組　午前十一時～十一時四十分まで

忍郷友会々諸兄には是非一度参観に来て頂きたいものと存じます。

②東京支部素読教室始まる

㈶忍郷友会東京支部において、平成二十三年五月より素読教室が開講になりました。概要は次の通りです。

名　称　天眼寺（論語。漢詩）親子素読教室
会　場　天眼寺会堂　東京都台東区谷中一―二―十四
開講日　毎月第二土曜日（二時～三時）
受講料　一回一家族五百円
概　況　受講資格を天眼寺に縁故を有する低学年児童とした故なのでしょう、今のところ児童数が四名と一般人（父兄を含む）六名と総勢十名余りですが、追々の児童増加を期待しているところです。

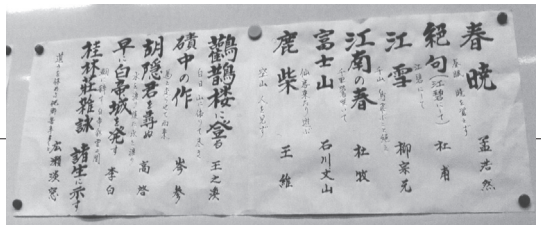
既に五月十四日、六月十八日、八月十日、九月十日、十月八日、十一月十二日と行い、元気な朗唱の声を天眼寺境内に響かせております。

第二回湯島聖堂

③漢文検定試験実施される

去る十月二十九日㈯行田市郷土博物館講座室において、第二回漢文検定試験が実施されました。昨年に続き、今年も二十八名の当塾生が、寺子屋の部　初級・中級・上級に分かれてそれぞれ受験しました。今回から中級、上級においては、筆記試験が加わったため、まだ学校で教わっていない漢字を一生懸命覚えての受験でした。また、東京支部から二名の受験者がおり、東京の湯島聖堂会場で受験されました。

漢文は日本文化の根幹をなすものです。和歌も物語も日記も随筆も、紫式部青少納言も芭蕉も漱石も、基礎に漢文があるのです。漢文を学ぶことの重要性は論をまちません。



まず論語や漢詩の魅力に触れて、少しでも多くの方々に、日本人の心の故郷を訪ねて頂きたいと思います。「漢文検定」はその契機になることを願うものです。

審査は、湯島聖堂斯文会漢文検定協会から委任された忍郷友会松平会長、矢澤大和、山本憲作理事、新井啓介評議員の四名が審査員として厳粛に審査されました。

寺子屋の部（試験内容）
初級組　論語（朗唱のみ）
　漢詩（　〃　）
中級組　論語（暗誦と筆記試験）
　漢詩（　〃　〃　）
上級組　論語（筆記試験のみ）
　漢詩（　〃　）

平成二十三年度　会員名簿

法人会員

㈱シンセイ開発　新井　誠
医療法人　葦の会　石井　義則
㈲羽生モータースクール　五十幡和彦
㈱有斐閣　江草　忠敬
税理士法人大久保会計　大久保　毅
大野建設㈱　大野　年司
小川工業㈱　小川　雅以
公認会計士　奥貫　健一
㈲中央百貨店　川辺　秀夫
ガクヤ㈱　小池　俊輔
東旭㈱　小菅　克祥
小山商事㈱　小山　博
㈱清水アーネット　清水　孝男
ベルヴィアイトピア　清水　利一
㈱協同バス　鈴木　秀憲
田代商事㈱　田代　敬二
㈱ファイブイズホーム　細井　保雄
㈱サンワックス　山田　晃
㈱行田セレモニー　横川　福治
渡辺㈱　渡邉　栄一

役員

青柳　憲助　新井　啓介　新井　友一
飯塚　利男　飯田　芳幸　五十幡和彦
井上　啓子　岩崎　安裕　碓井　勝也
永島　健雄　江草　忠敬　江草　祥子
榎本　晃三　江原　史郎　江利川　毅
遠藤　初枝　大澤　誠　大野　年司
大谷　純一　岡安　徳一　小川　雅以
奥貫　健一　小澤　誠邦　加藤　力也
川辺　秀夫　木嶋　清　木村　義
木元　紘一　倉持成一郎　黒渕　陽夫
小池　俊輔　木暮　照子
小山　博　斎藤　準一
清水　義夫　鈴木貞二郎
瀬山　文孝　田代　敬二
戸塚　義男　中川　邦明
西澤　脩　根岸　仁司
長谷川雅敏　東　瑞芳
藤倉　浩　古市　實
保泉　欣嗣　堀　岩夫
松平　忠昌　松平由美子
宮川　公男　武笠　勇
諸貫　健一　八木原　保
山田　晃　山本　憲作
横田　保良　吉川　正就
渡邉　久記　綿貫　守男
㈳行田青年会議所・理事長

正会員

秋山　佳干　秋山　節　小菅　克祥
阿部秀二郎　鮎川　渡　清水　龍男
新井　宏幸　新井　誠　鈴木　秀憲
飯島　千裕　飯塚　正夫　戸ヶ崎直司
井桁　浄継　石井　義則　長島　康雄
今井　福司　今津利之助　橋本　恭一
植田　次郎　丑久保紀美　福島　伸悦
江草とみ子　遠藤千枝子　細井　保雄
大河原梅夫　大久保　毅　松岡　由浩
大須賀伊司郎　大谷　龍良　松本　皓一
大西　義道　大谷　昭　村賀　英介
岡田　則之　小川　秀樹　矢澤　大和
奥田　七寿　小沢　健一　横川　福治
小幡　和佑　折井　幸子　渡邉　栄一
柿沼　京子　柿沼　貴志
粕谷　悦昭　加瀬田　健
加藤　元三　加藤　一夫
鎌田　実　鴨田　武
川島　清　川島　亨
川鍋　重寿　岸　誠太郎
渥美　大童
新井　教弘
新井　昌夫
五十嵐亥三生
石渡　健司
岩田　譲啓
内田　善康
及川　礼子
大嶋　康三
大友　務
岡　隆史
荻野谷麗子
小澤光太郎
香川　宏行
柿沼　満
片桐　章雄
加藤　誠一
川島　清実
川田　隆生
岸田　昌久
木村　忠夫　木村　洋子　倉田　君子
倉田　耕市　手島克也（群馬銀行　行田支店長）　倉田　君子
小池　利昌　小久保和子　小島　成一
小島　敏男　小林　一好　小林　晴夫
小林　義和　小林　邦雄　小林　敏則
小林　友明　小山喜一郎
大岡　仁（埼玉県信用金庫　行田支店長）
宮崎　和雄（埼玉りそな銀行　行田支店長）　斎藤　勲
斎藤　慶一　齋藤　哲夫　斎藤　恒
坂田　幸彦　坂本　光代　清水　利一
正田　善洸　我妻光一郎（進修館高校　校長）
杉田　禮三　須郷　榮司　須郷　和美
須郷　隆　鈴木敬一郎
鈴木　寿子　鈴木スイ子　関根　俊一
鈴木　達哉　鈴本　達哉　武田　和則
滝田　和夫　田熊　宏次　田代克太郎
田島　博夫　田島　正雄
田中　利幸　棚沢　孝一　津田　馨
藤間　圭一　富田　暁子　冨田　久雄
中川　忠昭　長島　豊　中島　捷二
永沼督一郎　長野　武俊　新島　璋記
野口　昭夫　野口　啓造　信沢　精一
野村　正幸　蓮見　牧子　長谷川志づ枝
長谷川賢治　長谷川盛雄　畠山　貞子
畠山　恒雄　羽鳥　利明　羽鳥　弘
半田　太　東　美智子　平井ユリ枝
平社　輝男　二味　宏　古市　恒裕
古沢　勇治　細谷　茂樹　増山　忠男
町田　祥子　松田　招蔵　松本　安夫
丸山　和雄　丸山　綱男　三島　務
水谷　良二　水野　武久　武笠　直義
北上　博（武蔵野銀行　行田支店長）
最上　絹江　最上正太郎　持田　朋春
森　安正　矢口隆一郎　安田　裕信
安野　崇雄　柳瀬とし子　梁瀬　里司
山田　映子　山本　正幸　吉田　修
吉田　幸一　吉田　寿夫　吉田　稔
若松　良一　渡辺　幸子　渡辺　邦道

（平成二十三年十一月三十日現在）

平成二十三年度 事業行事経過メモ

1、会議

（一）総会

①定時総会（会務報告、講演会・懇親会）開催

日　時　平成二十三年六月十九日(日)
　　参加者八十四名
　　午後二時～八時
会　場　行田市・ベルヴィアイトピア
来　賓
　衆議院議員　本多　平直　様
　埼玉県議会議員　鈴木　聖二　様
　行田市長代理教育長　丸山　綱男　様
　行田市議会議長　吉田　幸一　様
　行田市教育委員会委員長　岸田　昌久　様
　行田商工会議所名誉会頭　鈴木　秀憲　様
　行田商工会議所会頭　小川　雅以　様
　行田商工会議所副会頭　細井　保雄　様
　行田ロータリークラブ会長代理　持田　朋春　様
　行田さくらロータリークラブ会長　新井　啓介　様
　行田青年会議所理事長代理　丸山　靖雄　様
　埼玉新聞社社長　小川　秀樹　様
　旧忍藩主阿部家二十二代ご当主　阿部　正靖　様

松平忠昌議長より平成二十二年度の事業および決算、監査について報告があった

記念講演
「国難を乗り越え
　新時代を築いた忍藩士達」
講　師　若松　良一　様
　（埼玉県教育委員会学芸主幹）

（二）役員会

①理事・監事合同準備会

日　時　平成二十三年四月二十五日(木)
　　午後三時～四時三〇分
会　場　行田本部事務所　会議室
審議事項
1　平成二十二年度事業報告書（案）について審議
2　平成二十二年度収支決算書（案）について審議
3　平成二十二年度の事業・決算に係わる監査
4　平成二十三年六月十九日(日)総会開催について
5　その他

定時総会日に開催される理事会・評議員会に提案する審議事項並びに総会報告事項の決定、総会の運営進行等について打ち合わせ

②評議員会・理事会

日　時　平成二十三年六月十九日(日)
　　午後二時～三時二〇分
会　場　ベルヴィアイトピア
審議事項
1　平成二十二年度の事業報告がなされ審議・承認
2　平成二十二年度の決算報告がなされ審議・承認
3　平成二十二年度の事業に係わる監査について報告された
4　その他

③理事・監事合同準備会

日　時　平成二十三年十一月十五日(水)
　　午後一時三十分～三時
会　場　行田本部事務所　会議室
審議事項
1　平成二十四年度事業計画（案）について
　A、「進脩塾」事業計画案について審議
　B、「浮城のまち行田少年の主張大会」事業計画案について審議
　C、「読書推進実行委員会」事業計画案について審議
2　平成二十四年度予算（案）について審議
3　平成二十四年一月の理事会・評議員会、総会・賀正会の日程について

小山博事務局長より平成二十四年一月二十八日(土)に開催したいとの提案があり審議

4　その他

2、教育奨励事業

①進脩塾活動
・定例講座
六　月「神話」　田代　敬二　先生
八　月「孟子」　荒井　桂　先生

九　月「孟子」　荒井　桂先生
十　月「孟子」　荒井　桂先生
十一月「神話」　田代　敬二先生
※行田ケーブルテレビにて放映
（内容）進脩塾の目的、講義、受講者の感想、今日の論語から

・素読教室の開催
日　時　毎月第一、第二、第三土曜日　午前九時三〇分～十一時三〇分
場　所　行田市郷土博物館講座室
対　象　行田市内低学年児童（四才～八才まで）四十七名
講　師　田代敬二、奥田七寿、川田隆生先生
内　容　論語・漢詩・孝経・俳句の学習

・素読教室東京支部の開設
・漢文検定試験

②「第二十五回・浮城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰
日　時　平成二十三年十一月十二日㈯
会　場　行田市教育文化センター「みらい」ホール
発表者　市内小・中学校児童・生徒、父兄等二五〇名参加
本会、松平　忠昌　会長より記念品を贈呈した。

③第九回読書推進学習会
読み聞かせボランティア（予定）スキルアップ講座と交流会
～読み聞かせからお話へ～
日　時　平成二十三年二月二十七日㈰
午後一時三〇分～四時
会　場　行田市男女共同参画推進センターVIVAぎょうだ2階学習室
講　師　落合美知子先生（児童図書研究家「おはなしとおんがくのちいさいおうち」主宰）
受講者　五十三名

3、運営会議開催

第一回
日　時　平成二十三年十月十一日㈫
午後三時～五時
場　所　本部会議室
議　題　①　公益法人申請の経過報告
②　各委員会の状況報告
③　その他

4、慶　弔

①叙勲・褒章受章
黄綬褒章　八木原　保様

②お悔やみ申し上げます
高橋　貞雄様
（平成二十三年五月十日ご逝去）
加治　久明様
（平成二十三年六月八日ご逝去）
松本　尚様
（平成二十三年七月三十一日ご逝去）
柳原　承光様
（平成二十三年八月三日ご逝去）

5、会員増強対策

新入会者紹介（敬称略　入会順）
（紹介者　小山　博）
・中島　捷二
行田市埼玉一一一八
盛徳寺住職（行田市内最古の名刹）
行田ロータリークラブ会員
・武田　和則
熊谷市池上九一八―九
㈱タケダ建築事務所代表取締役
行田ロータリークラブ第四十六代会長
・石渡　健司
鴻巣市北根一六四三
㈱イシワタ取締役会長
行田ロータリークラブ第四十六代幹事
（紹介者　永島　健雄）
・水野　武久
行田市西新町一〇〇―三一〇
元会社役員
（紹介者　大澤　誠）
・新井　宏幸
行田市宮本一六―二〇
行田運輸㈱代表取締役
（紹介者　小山　博）
・齋藤　哲夫
行田市大字若小玉一一九五
行田市議会議員議長歴任
・岩田　譲啓
行田市皿尾三六六

弁護士法人　蔭山法律事務所
代表社員
弁護士
蔭山好信
〒361-0073
埼玉県行田市行田一二番一二号
TEL〇四八―五五四―〇〇〇三
FAX〇四八―五六四―六六〇〇
埼玉県熊谷市宮町二丁目一一八番地
末広不動産宮町ビル二階・三階
TEL〇四八―五九九―一三〇〇
FAX〇四八―五九九―一三三〇
E-mail:kageyama@smile.ocn.ne.jp

行田市議会議員議長歴任

・野口　啓造
行田市須加三八〇八
行田市議会議員

・平社　輝男
行田市下須戸一四五二―一
行田市議会議員

・新井　教弘
行田市持田二五六四
行田市議会議員

・秋山　佳于
行田市荒木二〇七一
行田市議会議員

・松本　安夫
行田市富士見町二―二五―二一
行田市議会議員

・柿沼　貴志
行田市栄町一六―四四
行田市議会議員

・梁瀬　里司
行田市棚田町二―九―一四
行田市議会議員

・大河原梅夫
行田市谷郷二三二五―一〇
行田市議会議員議長歴任

・東　美智子
行田市前谷七八五―七
行田市議会議員

・小林　友明
行田市持田五―五―二
行田市議会議員

・香川　宏行
行田市向町二九―三五
行田市議会議員

・吉田　幸一
行田市埼玉五〇八二―一〇
行田市議会議長

合計　十九名

新法人会員プロフィール

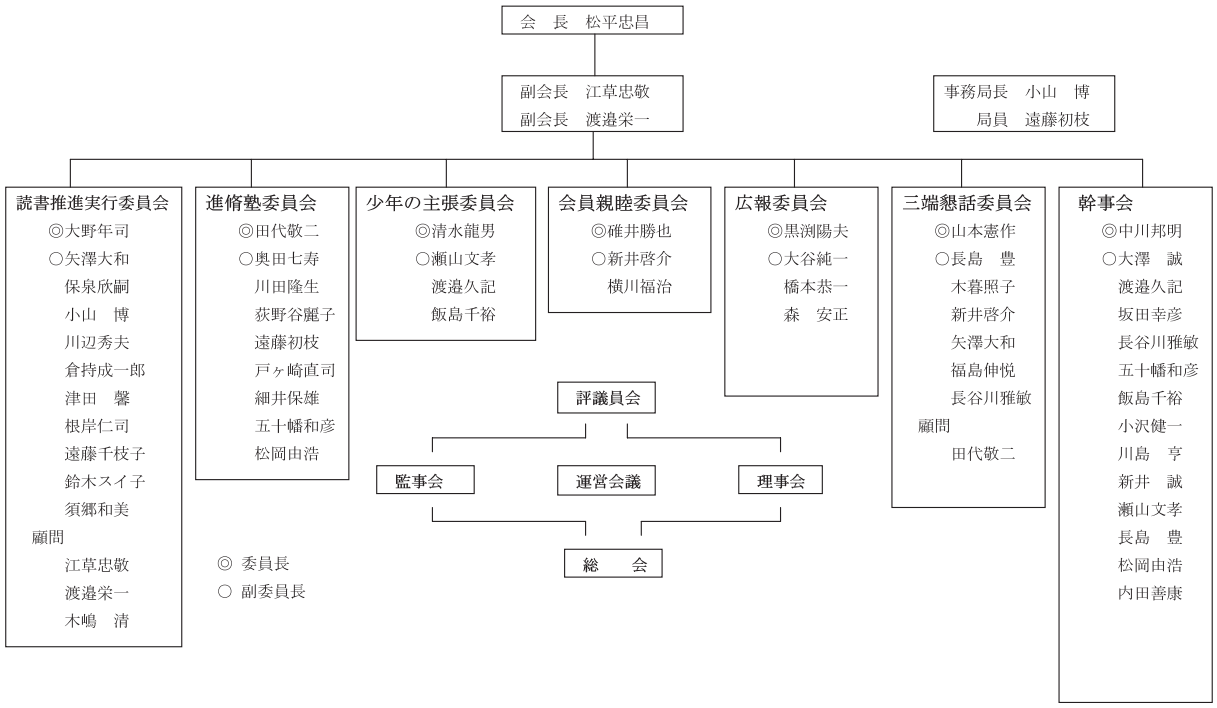
・小川工業株式会社
取締役会長　小川　雅以
事業所　行田市桜町一―五―一六
※行田商工会議所　会頭
※埼玉県内有数の堅実経営
建設土木会社

・㈱ファイブホーム
代表取締役　細井　保雄
事業所　行田市持田三―二―一七
※行田商工会議所　副会頭
※成長率抜群の県北を代表する
ハウスメーカー

進脩塾会費

（一〇〇、〇〇〇円）
小川　雅以
（五〇、〇〇〇円）
田代　敬二
（三〇、〇〇〇円）
鈴木　秀憲
鈴木貞二郎
小山　博
横川　福治
（二〇、〇〇〇円）
小澤　誠邦
木村　義
川辺　秀夫
木嶋　清
渡邉　栄一
細井　保雄
遠藤　初枝
（一〇、〇〇〇円）
清水　孝男
山本　憲作
中川　邦明
渡辺　邦道
矢澤　大和
奥田　七寿

（財）忍郷友会・運営組織図



【特別寄稿】藩学余香

日本考古学協会々員
元行田市郷土博物館々長
栗原文蔵

廃藩置県から百四十年、忍の地名を耳にする機会は減った。忍城は何と読み、忍藩は何処に在ったかさえ、知らない人が増えてきた。忍藩進脩館は近年三校統合の進脩館高校にその名を留めたが、かつて「藩学進脩館跡」は県史跡であった。損われたとして昭和三十八年指定解除となり、現在は中央小学校正門左側の隅に小石標が残るだけとなったが、威厳のある「進脩館」の篇額は、市博物館で公開されていて往時を偲ぶ因となっている。

藩校と言うと主君に忠義を尽す道を専ら教えたと思われるかも知れないが、それだけではない。その事は蔵書類からも窺い知る事が出来る。

宮内庁には、多くの貴重な書籍が収蔵されているが、その中に「吾妻鏡」の古写本がある。書陵部の河田貞夫氏（深谷出身）を煩わし、実見する機会があったが、善本で「忍文庫」の小判形蔵書印が押されていた。

忍藩由来本は、浦和高校、熊谷高校にも収蔵されている。熊高所蔵分については、長谷川宏氏（行田出身）のご尽力により分類整理され、熊高百年記念事業の一環として、目録も刊行されているので概要が分かる。

これによると和本類三九三四冊中に、忍文庫、進脩館由来の二三一冊が含まれている。収蔵の経緯は分からないが、浦高にも可成りの分量があると聞くので、別個に偶然収蔵されたとは考え難い。廃藩置県後、忍藩本は忍県から埼玉郡を中心とする埼玉県（県庁岩槻）に引継ぎ、さらに現在の埼玉県（県庁浦和）に引継がれ、県立一中（浦和）、二中（熊谷）設立に際し、双方に分与されたものと推察される。

こう考える理由の一つに、熊高所蔵本には埼玉県学校蔵書印（明治五年）、埼玉県立学校文庫印（明治八年）、書籍館印（明治九年）なども少数ながら含まれているからで、当時としては総力をあげて高水準を目指したものであったろう。

付図は、進脩館由来本の内。資治通鑑（つがん）（津藩版）である。書名は、治世（しじ）に資し、為政の鑑とするに足る通史の意とされる。中国の史書で二九四巻、北宋の司馬光が元豊七年（一〇八四）神宗の治世に完成。津藩有造館蔵版で、津藩は藤堂高虎を藩祖とし、伊勢、伊賀二か国を領する雄藩。有造館は津（伊勢）に置かれた藩校で、上野（伊賀）には崇広堂が設けられた。出版を行った藩、藩校は他にもあり、熊高収蔵本では、徳島藩、南紀学習館、加賀藩、会津藩、水戸藩、川越藩本などがある。

進脩館は明治に入って、忍高等として地位を占める。小学校は各地に設置が進んだが、修業年数は四年で、進脩館は組合立の高等小学校として、城付の村から生徒が集る事となった。袴を付けていないと教室に入れなかったが、歩き難いので帰りには脱いで懐に入れる者も多かったと聞く。大正初頃には、高小就学者も増加し、各地に高小が設置され枠組が変る。進脩館の精神は、大正四年設立の忍実科女学校に受け継がれ、大正十年郡立、十二年県立となった。進脩館の篇額は忍高女、行田女子校に永い間掲げられていたものであった。

資治通鑑

東日本大震災で考えたこと
～津波警報と避難指示の難しさ～

宮川公男

三月十一日の東日本大震災での大津波、この秋の十二号、十五号と二回にわたる台風のもたらした大水害、そして外国でもタイの首都圏での大洪水など、今年は世界で大きな水害が続発した年であった。

行田市も、利根川や荒川を近くに控え、また「忍城水攻め」の歴史からも明らかなように、低地で水害を被りやすいところに立地しており、そのリスクには十分に注意が払われていると思う。十歳代半ばまでしか行田で過ごさなかった私には、行田での水害の経験は全くないが、今の市民や市の行政はそのリスクをどのように意識され、また対応されているのだろうか。

今年の水害で大きな問題になったことの一つは、行政当事者による市民への避難の勧告や指示の問題がある。その勧告や指示が遅れたり、適切でなかったために多くの命が失われたとか、あるいは市民側が避難しなくとも大丈夫だろうと判断して勧告・指示に従わなかったために命を落としたという例がいろいろと報道されている。

しかしここにはこの問題に限らず世の中に広く存在する難しい本質的な問題が含まれている。避難の勧告や指示を出す側にはどれほど大きな津波や洪水がいつ、どこに押し寄せるかについて最大限努力して集めている情報はあっても、それは完全に正確で確実な情報ではない。したがって結果的には、避難する必要はなかったのに避難指示をしたとか、逆に避難が必要だったのに指示を出さなかったという二種類の誤りが起こりうる。しかし、そのような誤りは避けられない中で、指示を出すか出さないかのどちらかに決めなければならない。これは非常に難しい決定の問題なのである。

このとき、どちらの誤りが起こっても、事後的には苦情や非難がなされることが多いが、いずれの場合でも、それは起こらなかったもう一方の誤りを棚に上げたものである。しかし、誤りから被害を受けた人の立場からすれば、それは心情的には理解されなければならないものであろう。

このように、あることが起こるか起こらないか、どちらかが誰にも一〇〇％確実にはわからないままでどちらかに決めなければならないということは、私たちの身近にいっぱいある。例えば雨が降りそうな天気のとき、傘を持って出るかどうかという問題である。天気予報が一〇〇％信頼できればよいが、実際はそうではない。そのとき、天気予報では雨が降るというので傘を持って出たら雨は降らずに傘が邪魔になったとか、逆に雨は降らないという予報なので傘を持たずに出たら雨に会って濡れてしまったというようなことは時々起こることであり、実際に経験した人も多いだろう。このように軽い問題ならば間違ってもまだよいが、津波警報で行政当事者が市民に避難指示や勧告を出すかどうか、そしてそれを受けた市民が避難するかどうかを決めるということになると、その決定ははるかに重い問題である。

しかし問題の本質はどちらも同じである。例えば、人は災害からの避難のときなぜ逃げ遅れることが多いかというようなことを考えるとき、リスクに対して人々がとる考え方と行動、情報の信頼性など、この問題に含まれているキーポイントをよく理解しておくことが重要であろう。

（私の専門の研究分野の一つである統計学では、ここで述べたような事実が予想の裏目に出たときの二種類の誤りを第1種および第2種の誤りと呼んで扱っている。詳しくは私の著書『統計学でリスクと向き合う』東洋経済新報社刊を御参考いただければ幸いである。）

東日本大震災で私が考えたことの一つをここに記するとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げたい。

ヨーロッパドライヴの薦め

鈴木秀憲

「ヨーロッパドライヴをしてきました」と云うと多くの方から、「アウトバーンを走ってきましたか？」と聞かれる。一般にアウトバーンと呼ばれるがこれはドイツ語で彼等はオートバーンと発音する場合が多い。因みにフランスではオートルート、イタリアではアウトストラーダ、スペインではアウトピスタ、ポルトガルではアウトエストラーダ、イギリスではモーターウエイとなる。それは兎も角、確かに高速道路網は発達していて大変便利。これを使えば行動範囲は大変広がる。

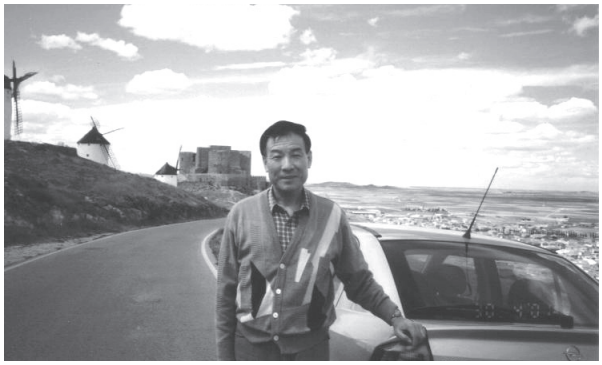
しかし日本でもそうだが、運転して楽しいのは郊外の一般道路だ。アップダウンのある丘陵地帯を緩やかに屈曲した道路を行く。周囲は真っ黄色の菜の花が一面に咲いている。或いは左右の牧草に羊がいっぱい居て草を食んでいる。或いは道路の左右に大きな川を見ながらのドライヴ。何処を取っても絵になる風景の中を、他者に妨げられずにマイペースで飛ばす。車好きにはたまらないスチエーションだ。スイスの峠道ではマニュアルミッションを駆使して前を行くトラックを抜き去る。この感覚は私の記憶の中ではっきりと甦ってくる。

二〇〇一年四月三十日午後
スペイン中部にて

トレドから七十五km南のマドリデホスまでは一般道路を行く。ここのリミットは一〇〇km／h。この速度で片側一車線だから対向車は飛ぶ様にすれ違い、誠にスリル満点だ。

道の両側は畑ばかりで単調な様だが、区画毎に濃い緑や明るい緑、又黄色や赤土の茶色等が、偶然の結果だが色とりどりに配置され、しかも道路は適度のアップダウンがあり、その中を道が屈曲と共に伸びている。まさに絵に描いた景色の中を進んでいくので、運転は楽しい！の一語につきる。人家は無く、街と街の間は畑ばかりで、たまに小高い丘の上に城や教会を中心とした集落が現れる。家々は皆、白い壁とオレンジ色の瓦。そこここが全て絵葉書になる感じだ。

マドリデホスに着く手前で、十km位続いた直線道路の、終点の右の小高い丘の上に小さな城とその周りに十基以上の風車が見えて来た。ドンキホーテで有名なコンスエグラだ。一寸寄り道してその丘に登ってみた。



ドンキホーテが巨大な快物と錯覚して挑戦しはね飛ばされた風車（写真左手）の有る丘　コンセグラにて

二〇〇四年九月十三日午後
ドイツライン河畔

ストラスブールからビンゲンへはライン左岸のA三十五で向かう事にした。カールスルーエ西で一時一般道へ入ったが、渋滞する事も無く二〇〇kmを二時間半で走り、ビンゲンにあるライン川を眺める高台へ十七時十分に到着した。未だ陽は高く、マンハイム迄北進してきたラインは向きを変え西進に変わり、左岸は南側なので対岸の景色がはっきりと見える。リューデスハイムから葡萄畑の上をニーダーヴァルトの丘へ通じているロープウエイにぶら下がっている沢山のゴンドラ一つひとつが光って見える。

此処からは文字通りライン左岸の一般道を西へ進む。今迄のE三十五やA三十五等は、ライン右岸だ左岸だと言っても道路から川は遠く、走行中には一度も川面を眺める事は出来なかったが、此処からの川沿いの道は右岸も左岸も川ぎりぎりの所を走り、しかも土手は無いので川はよく見える。コブレンツまでの七十kmはすべてこんな調子だ。そして水運の為だろう橋も無い。と言う事は交差する道路は無く、信号も無い。道路の山側には右岸も左岸も鉄道が走っている。列車からの眺めは、川と道路がよく見え更に良い景色だろう。（両岸の連絡は何ヶ所か有るフェリーを使う）

このようなところは飛ばして急ぐ必要は全く無い。いや眺める時間が少なくなる分勿体無い。六十km／h～七十km／hでゆっくり流していると、九十km／h～一〇〇km／hで走る車にどんどん抜かれる。私の抜かれ方も邪魔にならないようにしているが、彼らの抜き方も上手い。従って私が流れを妨害している様な事は

無い。本当に気持ちの良いドライヴだ。日本ではこんな事は望むべくも無い。第一、殆どが追い越し禁止。そして追越し可能な場面になっても、先行するのろい車は「左へ避けて早い後続車を先へやり過ごそう」等と考える人は極く少ない。こちらが追越そうとすると、抜かせないようにスピードを上げる変な人も結構見かける。こんな輩は車に乗る資格がないと私は本気で思う。

ライン湖畔の街　ザンクトゴアールにて

ローレライ（右岸）を過ぎた先の左岸に、オートキャンプ場が設けられていた。バードウォッチングのような早業で数える事は出来なかったが、走りながらの一寸見にも二〇〇台以上のキャンピングカーが羽根（鳥では無いので羽根は無いが、キャンピングカーの側面から張り出しテント）を拡げて休めていた。こちらの人達はオートキャンピングが大変好きなのだろう。自走タイプ、トレイラータイプを問わず走っているのも良く見かける。キャンプというと日本では若い人が多いようだが、こちらでは年配の（一線を退いたと思える）人達を多く見かける。

二〇〇五年七月二十一日午後
フランス北西部

フォージェルからは三十番入口でE〇三に乗り、三十三番出口で降りて田舎道をモン・サン・ミッシェルへ向かう。十分程走ると、右手前方に何回も写真で見たあのモン・サン・ミッシェルの姿が見え始めた。進むにつれて次第に大きくなっていく、実に威厳の有る姿だ。レ・ポルト・デュ・モン・サン・ミッシェルで右折すると直ぐに島へ続く取り付け道路となる。この二㎞余りの道路は前方の景色を楽しみながらゆっくり走った。後ろに車が続いていたかどうかは気にもならなかった。仮に後ろに車が居てもそのドライヴァーも前方の景色に見とれていて、ゆっくり走ったことだと思う。島の数一〇〇メートル手前で堤防の上の道路から右側の海辺に下ろされ、先ず四ユーロを支払わされた。「島のホテルに宿泊するのだ」と言うと「ずっと奥まで行きNo.一エリアで堤防上の道路に上がり、キーで中へ入れ」と言っている。「キーで中へ入れ」と言う意味が良く分からなく、聞き返したがやっぱり理解出来ないが、行ってみれば何とかなるだろう。島に一番近いNo.一エリアまで行き堤防上の道路に上がったが、バリーカーが有ってその先へ進めない。キーであけて進むのだろうがキーを持っていないし、先程の駐車場入口まで戻ってもキーをもらえるとは思えない。私の後から車が来たので彼を見ていると、キーで開けて入っていく。彼は我々にキーが無ければ入るなと言っている様だ。やむを得ず堤防から降りてNo.一エリアの中でも島の入口に一番近い駐車スペースにオペルを駐める。周りにも沢山の車が駐めてあるからここで良いのだろう。

モンサンミッショルへ続く
堰堤上の道路にて

ここから島へは堤防へ上がる為のスロープとウッドデッキで、荷物が有るのにも拘らずストレスも無く島へ渡れた。宿泊予定のテラス・プラールはガイドブックに出ている位置よりも手前にあり、島へ入ってから徒歩二～三分で到着。通りから左へ十数段の石段をキャリーケースを持って上がり、右側の暗いフロントでチェックイン。ここで重大な事を知った。「車で来たのか？」「YES」、「堤防の上か？」「NO」、「ではゲイトのキーを貸すから車を堤防の上へ上げて！さもないと今夜満潮時に車は海の中よ！」との事。これで先程の駐車場のおばさんの云っている事が分かった。急いでオペルの移動に行く。周りには未だ沢山の車が居たが、この車達はどうするのだろう？多分フランス語で注意書きがして有って、皆さんは分かっていて時間までには引き上げてしまうのだろう。キーでバリーカーを倒して車を堤防の上の駐車スペースへ移動した。

二〇一〇年八月十二日
ポーランド

午前中は世界遺産のワルシャワ市内の散策だ。ホテルから右へ出てクラクフ郊外通りを北上し隣の大統領公邸の前を通り旧王宮の前を過ぎ、

旧市街市場広場へ行く。クラクフから遷都された十六世紀以来の町並みが残されていたが、第二次世界大戦のワルシャワ市街戦で徹底的に破壊された。しかし戦後になってワルシャワ市民の熱意で昔のままに復元されたそうだ。この広場はワルシャワの代表的な場所として良く写真で見かける事と、この修復はレンガ一つ疎かにせず壁の割れ目に至るまで詳細に行われた事で有名だ。常に手を入れてこの美しさを保っている。現に我々が尋ねた時も一部を修理していた。：中略：

十二時三十分にワルシャワを出発。ルブリンまで十七号線で一八〇km、一般道三時間の行程だ。グーグルマップのお陰で十五時五十分に旧市街地傍の路上へ駐車出来た。駐車した所も若干の坂道だったが、旧市街地全体が坂道になっている。旧市庁舎が街の中心で坂の上になっている。旧市庁舎前広場では恰も我々を歓迎してくれているように民族衣装の一団が伝統の踊りを行っていた。旧市庁舎から坂道をいったん降りて北東の丘の上にある白亜のルブリン城へ行ってみた。第2次大戦の時はナチスに反抗した政治犯を入れておく牢獄として使われていた城も今は博物館となっている。中へ入ってみたがあまり印象には残っていない。

ルブリンで我々を歓迎して
踊ってくれた民族衣装の一団

話を戻そう。

ヨーロッパでは郊外に於ける一般道路での速度制限は一〇〇km／h、見通しの良い場所は、片側一車線でも追越しOKだ。抜かれる車も心得ていて後続車が抜き易いように路肩側へ避けてくれる。間違っても（日本でしばしば見かける様な）追越そうとする後続車に抜かれない為に加速する様な輩はいない。逆にこちらを追越しておいて（これも日本で良く見かけるが）人の前に出てからゆっくり走る失礼な奴もいない。この辺は我々日本人が見習うべきマナーだ。

高速道路での速度制限は一般的に一三〇km／h。ドイツのアウトバーンの一部は今でも制限速度が無い。しかし速度制限区間が多くなっているのも事実だ。速度制限が有っても楽しく走れる。その制限が現状に合っているからだ。と云う事は制限を超えれば危険な状態になると云う事で、多くの車がこの制限に従って走っている。日本みたいにオーバーな規制は行われていない。実際、日本の高速道路では七十km／hに規制されていてもその理由が分からない。又、その規制をはるかに超えた一〇〇km／hの速度で多くの車が走っている。そして特に危険な状況は発生しない。変な規制と無視している車達だ。これでは信頼関係は生まれない。

ヨーロッパではルールを良く守るし、マナーも良い。追越車線を走り続ける車は居ない。通常は走行車線を走り、追越す時のみ追越し車線を使い、追い越したら素早く走行車線へ戻る。この状況は日本とは大違いだ。日本では追越車線上で走行車線上の車と並走している場合が多々見られる。うっかりすると追越車線上の車が走行車線上の車に抜かれる事も間々ある。これは共にマナーが悪い。日本は自動車生産一流国では有っても、自動車使用三流国、否自動車文化三流国と云われても仕方がない。

「ヨーロッパでは左ハンドルで、運転し辛く有りませんか？」と聞かれる事が有る。イギリスを除いて車は右側通行だから問題ない（イギリスは日本と同じ右ハンドル）。日本で左ハンドル車を運転するのは不便で危険だが、右側通行の国では左ハンドル車の方が運転し易く、日本とは左右反対では有るが全てがそうだから直ぐに慣れます。

又、「言葉が分からない外国で道路規制は直ぐに判りますか？」とも聞かれるが、道路規制は標識で行われ、道路標識は万国共通なので日本と変わらないので直ぐに判るのです。従って、ヨーロッパでの運転は、皆さんが考えている程難しくは無く、むしろ前述した通り、速度標識を初めとする規制を守り、他車に迷惑をかけないと云うマナーをしっかり身につけておけばヨーロッパドライヴは大変楽しいので、皆さんにお薦めしたいと考えます。

以上記述した他、海外でのコース作り、レンタカー借用法、都市内での走り方、国境超えのドライヴ、そして夫々の国での人々との出会い、その他諸々については紙面の都合上割愛しましたが、機会が有れば後日お話させて頂きたいと考えています。ご精読有難うございました。

『ゼリーフライ』を行田の資源に…
～【関東B－1グランプリin行田】に参加して～

田島博夫

『関東B－1グランプリin行田』が、残暑の中、九月十・十一日の二日間に亘り水城公園および市民プール脇公園会場にて開催された。本来であれば、この大会の後に、映画『のぼうの城』が封切りとなり、一気に行田をPRするはずだった。三月十一日発生の東日本大震災被災地・被災者への配慮から映画配給会社が一年間の上映先送りを決めた。

お目あてグルメを目指して長蛇の列

ともあれ、好天に恵まれ、二日間の人出は十三万七千人と発表された。このイベントはグルメイベントではなく街おこしイベントである。県単位の多くのイベントも、全国から業者が集まる催事やイベントも、あくまでイベントへの集客が目的であり、『B－1グランプリ』とは基本的にはコンセプトが違う。食べ物を提供するが、食べものだけを売るのではなく、『まち』を売る『街おこしイベント』である。味を競っているわけではない。出店者は街おこしに取り組む団体であり、飲食店や企業は出店する事は出来ない。飲食店舗や企業が出店するのでは、基本的に店のPRになっても、街おこしにはつながらない。『B級ご当地グルメ』はまちを売る『地域資源』である。

食の街おこしは『食』が先ではなく、『街おこし』が先である。食を通じた地域活性化をめざすには、B－1グランプリは起爆剤になっていくであろうと思うが、同時並行して、また、地域がいかにその波に乗っていくかが重要なポイントである。今回、地元も元気に応援出店してくれたが、街全体への周知が不十分であった感は否めない。私も恥ずかしながら、半年も前からこのイベントの実行委員会に参加をしながら、趣旨が理解できたのは、イベント前夜祭である。出店団体の代表者たちが、誰もが「ここ行田の街おこしにやって来た」「まちを元気にしたい」「来場者に喜んで欲しい…」と言う挨拶であった。石巻・気仙沼・登米・浪江、自分達の街が震災でぼろぼろになっていたこんな彼らがである。普通こんな発言はあまりしない。

そして、出店者達はもちろん本業ではない。『富士宮やきそば』を売る富士宮やきそば学会会長は私と同業の保険業である。『厚木シロコロ・ホルモン』を売る厚木シロコロ・ホルモン探検隊隊長はペンキ屋さん、などなど。皆、一同に「食べ物を売っているのではない。街を売っているんだ。街を元気にするために…」。

『行田のゼリーフライ』は行田の救世主にならなくてはいけない。かつて、行田と言えば『足袋』であったように…。今年は『甲府鳥もつ煮』の『みなさまの縁をとりもつ隊』が優勝した。新聞には、帰郷しすぐに甲府市役所を訪れ市長に優勝の報告をした記事が掲載された。市長は「甲府を有名にしてくれてありがとう」とねぎらった…と。

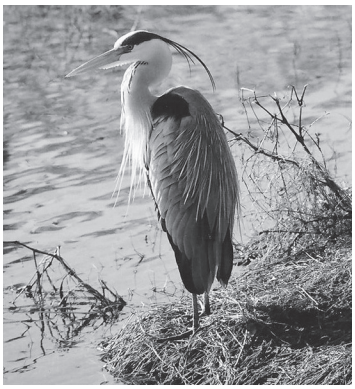
『富士宮焼きそば』の経済効果が八年間で四三九億円という試算が出て、世間の度肝を抜いた。たかだか数百円の食べ物のためになぜわざわざ観光客が訪れるのか。そしてたかだか数百円の食べ物がなぜ数百億もの経済効果を生み出すことが出来るのか。

「地元のB級グルメで町おこしをやっていこう…」こう一言で片付けていた『B－1グランプリ』の本質を見た気がした。

参考：地域の活性化に関する研究報告書　㈶自治総合センター

未来へ伝えよう！ふるさとの自然

今回は広報委員が行田ナチュラリストネットワーク代表の橋本恭一さん（広報委員でもある）を取材してきました。



アオサギ

【自然保護活動のきっかけは？】

山歩きや川遊びが好きでした。自分の子供に自然や生き物にふれさせたいと思ったことが原点です。

【行田ナチュラリストネットワークの発足は？】

平成六年です。行田の自然を調査し、まちづくりに生かそうと野鳥、野草や天体が好きな五名でスタートしました。

行田の自然を行田市民の方に知って頂くため、調査の成果を「行田自然ガイドマップ」「行田の自然Ⅰ」などの発行。自然観察会。前玉神社のふるさとの森の手入れも約十年行っています。

【キタミソウの保護活動にも取り組んでいますね？】

行田市の上星川流域は国内最大の自生地です。環境省の絶滅危惧種に指定されています。星のようなとても小さな白い花をつけます。キタミソウを守ることをとおしていのち輝く水辺の自然の自然を守りたいのです。「星川の自然とキタミソウを守る会」では年二回観察・清掃活動を実施しています。行田さくらロータリークラブ、行田市の支援を受けてキタミソウ紹介の各種パンフレットが発行されています。

キタミソウ

【いま、当面する課題は？】

今春、行田さくらロータリークラブの支援により「みどりの行田ネットワーク」が発行した「未来へ残したい行田自然八景」を歩いて観察するイベント。

数年来取り組んでいる利根大堰運用以来の行田側への偏流の一部是正を自然再生によって行う国交省との話し合い。

埼玉県の自然、防災の始発点とも言える県境尾根の荒廃（ニホンジカによる食害など）の指摘などです。

【さくらマップも橋本さん？】

（苦笑）行田ナチュラリストネットワークは関与していません。私が行田さくらロータリークラブの一会員として編集に携わっただけです。でも良い物ができたと思っています。ぜひ手に持って行田のさくらを観察して下さい。

【本会報が発行される頃、行田の自然にふれるお勧めポイントは？】

郷友会会員は歴史好きが多いので、中条堤を見学しながら福川のカモの観察がお勧めです。オオバンやオカヨシガモ・ハシビロガモなど数種がみられます。七倍か八倍の双眼鏡を忘れずに(廉価な物で十分です)ノスリなどタカの仲間にも会えるカモ。

【二年ほど前、白川戸で孔雀を見たのですが】

自然に北上したのではなく飼い鳥が放されたか逃げ出したのだと思います。

みどりのぎょうだネットワーク

http://midorinogyoda.net/

水城公園のオナガガモ

俳句

特別寄稿

木嶋　斗川

聖五月畑に農脳作業かな
利根近き父の生家の花あやめ
生き御霊白寿に近き顎の反り

清水　孝男

極月や記憶につよき大災害
生業（なりわい）の身の引き締まる節季かな
名残空まだ為すことのありたるに

短歌

木嶋　清

鰯雲古墳の頭撫で行ける
今日のひと日を白く明るく
恋すずめ屋根に木の根に色めきぬ
胸の奥には君の微笑み
かなかなに叩き起こされ木々仰ぐ
あと何年の命よわれは

榎本　晃三

オンザロックぐらすに薫る一片の
レモンにかへるテネシーワルツ
老いていま何を照らすか月あかり
秋かぜ寒く思いの憂うつ
あの日貴女はジュリエット今宵いま
さし向く夕餉の「偕老同穴」

平井ユリ枝

夢やぶれ緑眩しき山門を
くぐるわれらを迎えし静寂
捨て猫のわれ見る瞳つぶらきよ
すまぬ思ひに餌あげの日々
嵐の夜幼き頃の友の逝き
法衣を見ては寂しさつのり

鈴木スイ子

夕去りて梅の白さの際立つを
眺めておれば仄かに匂う
藤棚の下に集いて不揃いの
花房なれど良き香賜る
山霧の裾より晴れて集落の
中心に建つビルの白壁
鬼怒川の露天の風呂に一人いて
病む地球より名月眺む

俳句

古墳の火祭

火祭の古墳に神話蘇る
円墳に炎ゆらめく祭かな
県名を生みし古墳の祭かな

斉藤　勲

西伊豆・踊り子歩道を往く

星かげに亡き人慕ぶ弓ヶ浜
寝姿の下田の山や秋慕情
秋澄める七滝（ななだる）明ると踊子像

増山　忠男

衝撃の3・11めぐる秋
乳いろの裸婦と月光ピエロ病む
すすきの穂透かす残照ノスタルジー

榎本　晃三

新年の気合失ふ妻の留守
病む妻のリハビリゲーム女正月
宝石を欲しがる妻にりんご剥く

木嶋　斗川

主逝って荒れたる庭に菊揺るる
扇状の山間光る代田かな
生終えて水面に浮きし法師蝉

阿部秀二郎

四万の湯に今宵寂しき居待月
野に山にコスモス咲くや道しるべ
わが袖に素直なトンボ追い難し

今井　福司

蹲踞（つくばい）の柄杓の影や冬浅し
走ろうと止まろうと来る師走
あれこれと多き年かな十二月

清水　孝男

春の空位置のずれたる大日本
天近く円墳上に待つ初日
カーブ毎わっと歓声五月富士

鈴木スイ子

満天の星とおしゃべり園児かな
蕗を煮てとどのつまりの二人にて
桜咲きばばも歌ひし童歌

平井ユリ枝

人の世を斜めに見つつ秋の月
眼裏にいつも流れのある秋思
遠き日の思いたどりて長き夜

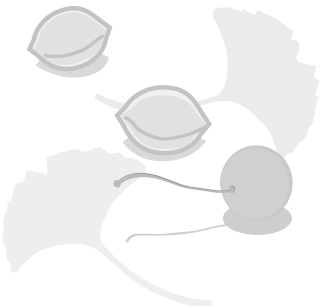
折井　幸子

月明かりすすきが踊る風の闇
東北の里のススキも涙ぐむ
風と散り流れ去りゆく花筏

三島　務

野には野の川には川の秋の声
新茶汲み日出づる国でありにけり
幾年の思いめぐらす里の秋

遠藤　初枝



忍藩子ども塾素読教室
詩吟発表会に特別参加

去る十一月二十三日（祭日）、行田市教育文化センター（みらい）文化ホールにおいて、忍藩子ども塾素読教室の児童が、行田詩吟連盟から、特別参加のご招待を頂きました。総勢三十五名の児童（幼稚園から小学校六年生まで）が漢詩十首、論語十一首、を堂々と発表しました。

詩吟の中には、漢詩を吟じる場合が多く、「春暁」“春眠暁を覚えず”「絶句」“江碧にして鳥逾白く”「忍城偶成」“三百諸侯美風を競う”など普段から漢詩を学んでいるこども達にとって共通することが多いため、好奇心をもって一生懸命聞いていました。

全員「忍藩子ども塾」の水色のリボンを胸につけて日頃学んでいる論語、漢詩をステージの上から大きな声で空んじて、会場の皆さんから大きな拍手と感動をいただきました。

評議員　八木原　保氏
黄綬褒章受章される

さる十一月十五日秋の褒章において経済産業大臣のもと伝達式が行われ、午後には皇居の拝謁式に出席されました。

八木原さんは、昭和十五年行田市上池守にお生まれで、昭和四十年㈱ジムを創業、現在代表取締役会長、渋谷区神宮前に住んでおられます。東京卸商業組合理事長、日本中央卸商業組合理事長として、日本のニット業界の発展にご尽力、ご貢献されたその功績によるものです。

また四十年間にわたり、渋谷税務署の優良法人として認定され、㈱ジムの発展に全力で取り組んでまいりました。温厚で人望厚く、大変な紳士であることはつとに有名で、これからのご活躍、ご健闘をお祈りいたします。

御名刺掲載欄

（順不同）

行田市

市民の皆様と共に築く「元気な行田」の実現に向け、皆様のご理解とご協力をお願いします。

行田市議会

財団法人忍郷友会
会長
松平忠昌
〒214-0038 川崎市多摩区生田六―一五―三六
☎〇四四―九五五―九三三六

特別会員
白河藩阿部家二十二代当主
阿部正靖
〒297-0057 千葉県茂原市中善寺一一〇九―八
電話 〇四七五―二六―五五七九

株式会社 ケイマス
代表取締役
黒渕陽夫
〒361-0074 埼玉県鴻巣市赤城台三六二―二一
TEL〇四八―五六九―二二五一
FAX〇四八―五六九―二二二一

公認会計士
奥貫健一
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷三―一―十五―四〇一

天眼寺住職
東瑞芳
〒110-0001 東京都台東区谷中一―二―十四
電話 〇三―三八二一―七七一八

小川工業株式会社
会長
小川雅以
本社 埼玉県行田市桜町一丁目五番十六号
電話行田（〇四八）五五四―四一一一番
ファクス（〇四八）五五三―三四四四番

榎本晃三
〒361-0057 行田市城西四―三―八
☎〇四八―五五四―〇〇三八

棚沢書店
古本買入
棚沢孝一
〒113-0033 東大正門前
文京区本郷六―一八―一二
☎〇三―三八一一―〇三四一

ガクヤ株式会社
代表取締役社長
小池俊輔
〒361-0075 行田市向町十四―二十
☎〇四八―五五六―三一二一

大野建設株式会社
代表取締役
大野年司
〒361-0056 埼玉県行田市持田三丁目四番三号
電話 〇四八（五五三）〇一〇〇

行田市俳句連盟
木嶋清（俳号斗川）
〒361-0001 埼玉県行田市北河原六三〇
電話・FAX（〇四八）五五七―〇二七三

財団法人 若葉会
若葉保育園
園長
保泉欣嗣
〒361-0073 埼玉県行田市行田十一―十
電話（〇四八）五五六―二七九七

医療法人 葦の会
石井クリニック
元気いっぱい 笑顔いっぱい
理事長
石井義則
〒361-0037 埼玉県行田市大字下忍一〇八九―一
電話 〇四八―五五五―三五一九

山本食品工業株式会社
山本正幸
〒361-0025 埼玉県行田市埼玉四八六一
電話 〇四八―五五九―二一一一

東旭株式会社
代表取締役社長 小菅克祥
〒三六一―〇〇一六 埼玉県行田市藤原町一丁目六―一
TEL(〇四八)五五六―四五五一(代)
FAX(〇四八)五五六―四五五六

進脩塾素読教室
主幹 田代敬二
〒214-0038 行田市行田六―一六
☎〇四八―五五六―三七二八

大岡産業株式会社
COKA
代表取締役 大澤誠
〒361-0062 埼玉県行田市谷郷一三二〇―一
TEL 〇四八―五五三―〇一二八
FAX 〇四八―五五三―二六八一
携帯 〇九〇―一六〇二六一六〇
http://www.ookasangyo.com/

渡辺株式会社
代表取締役 渡邉栄一
〒361-0073 行田市行田一―四
電話 〇四八―五五六―三一四六
FAX 〇四八―五五六―一二八八
自宅 〇四八―五五六―八九六八

曹洞宗 松雲山 長光寺
久寶山 興徳寺
雲峯山 東泉寺
住職 福島伸悦
（連絡先）
電話 埼玉県行田市下中条一六一九―二
FAX 〇四八―五五七―〇九九九
〇四八―五五七―二三四七
E-Mail kotokuji@muc.biglobe.ne.jp

山本商事株式会社
東京海上日動火災保険株式会社（代理店）
東京海上日動あんしん生命保険株式会社
代表取締役 山本憲作
e-mail:ken@hoken-yamamoto.co.jp
〒361-0074 埼玉県行田市旭町一〇―四三
TEL(〇四八)五五五―二二二一(代)
FAX(〇四八)五五五―三三〇八
http://hoken-yamamoto.co.jp
e-mail:info@hoken-yamamoto.co.jp

羽生モータースクール
代表取締役 五十幡和彦
〒348-0036 埼玉県羽生市大字砂山八〇
TEL(〇四八)五六一―二〇〇八
FAX(〇四八)五六一―一五四七
http://www.motorschool.co.jp
E-mail:hanyu@motorschool.co.jp

行田市 蓮の大使
木暮照子
日展会友・工芸美術
日本新工芸家連盟会員
蓮文化研究会理事・副会長

株式会社 リノン
LINON CORPORATION
代表取締役 新井啓介
ARAI/KEISUKE (Casey)
President
LINON
〒361-0038 本社 埼玉県行田市前谷二五
Hoffice：25 Maeya Gyoda-shi Saitama-ken Japan
TEL：〇四八―五五九―〇五〇九 FAX：五五九―三二七九
携帯（Cell）〇九〇―二二三四―〇四二四
http://www.linon.co.jp E-mail: arai@linon.co.jp

有限会社 高戸環衛
埼玉県知事登録番号 第5―5105号
貯 第7973号
代表取締役 戸ヶ崎直司
〒361-0062 埼玉県行田市藤原町三―十一―二六
電話 〇四八―五五四―一九二〇
FAX 〇四八―五五六―二六二七

地元に密着した住まいづくり
株式会社 ファイブイズホーム
代表取締役 細井保雄
〒361-0056 埼玉県行田市持田三丁目二番一七号
電話 〇四八(五五三)二二二七二

代表取締役 飯田芳幸
yoshi@sakitama.or.jp
Emborick
NETWORK SERVICE PROVIDER
SAKITAMA-INTERNET
株式会社エンボリック http://www.emborick.co.jp
さきたまインターネット http://www.sakitama.or.jp
〒361-0001 埼玉県行田市北河原七〇五番地
GPSアドレス N：36°11′25″ E：139°25′40″
TEL 〇四八―五七―三二六六（代表）
FAX 〇四八―五五七―三四二一

財団法人忍郷友会
名誉理事 佐藤孝太郎
〒361-0076 行田市天満三―十六
☎〇四八―五五六―一九〇〇

割烹 和可稲
〒361-0074 埼玉県行田市旭町六―二一
TEL 〇四八―五五四―三二三八
FAX 〇四八―五五四―三二三三
飯島千裕

〒110-0016 東京都台東区台東一丁目三七番一〇号
綿貫守男

小澤企画
各種相談・企画・コンサル
代表　小澤誠邦
〒361-0006 埼玉県行田市大字白川戸七〇二―一
TEL（〇四八）五六四―一一一一
FAX（〇四八）五五二―〇五八二

（株）味工房　那のつ
代表取締役　阿部秀二郎
〒361-0023 埼玉県行田市長野一―三三―一〇
電話 〇四八―五五五―一四五〇

創業　文久二年　伝統の味
割烹　魚豊
橋本恭一
TEL〇四八―五五三―三一一三
FAX〇四八―五五三―三一一四

合資会社　青美矢沢商店
代表社員　矢澤大和
〒361-0073 埼玉県行田市行田二十―二十五
TEL〇四八―五五六―三二三一
FAX〇四八―五五六―三七七四

株式会社　倉持商店
紺織製品製造本舗・力王たび代理店
代表取締役　倉持成一郎
〒361-0022 埼玉県行田市桜町一―二十一―四
TEL〇四八―五五六―二九一四
FAX〇四八―五五三―二二八三

《昭和14年創業》
各種自動車・重機・ラヂエーター販売修理
有限会社　小笠原ラヂエーター工業所
代表取締役　中川邦明
〒360-0023 埼玉県熊谷市佐谷田一四三二番地
TEL（〇四八）五二一―三三九五（代）
FAX（〇四八）五二一―三三八四
自宅TEL（〇四八）五五三―〇二七八

株式会社　セティアコーポレーション
代表取締役　岩﨑安裕
〒323-0028 栃木県小山市若木町二―十一―五
TEL〇二八五―二三―八八三三（代）
FAX〇二八五―二一―三五七七

全国PHP友の会
副会長　加藤力也
〒362-0034 埼玉県上尾市愛宕三―二十―九
TEL/FAX 〇四八―七七一―一五八五
E-mail：show-katou@nifty.com

渡辺株式会社
常務取締役　渡邉久記
〒361-0077 埼玉県行田市忍一―五―十―一〇二
（グラフィック事業部）
電話 〇四八―五六四―六五二五

「地域共存」65年
税理士法人　大久保会計
所長　税理士　大久保　毅
副所長　税理士　大久保　栄吾
支店長　税理士　大久保　秀彦
〒361-0023 埼玉県行田市長野二九番三三号
埼玉県熊谷市津田一一八八番地

株式会社　田島エージェンジー
東京海上日動火災保険株式会社
東京海上日動あんしん生命保険株式会社　代理店
代表取締役　田島博夫
〒361-0073 埼玉県行田市行田五―一〇 スリーハートビル2F
TEL（〇四八）五六四―三二二二
FAX（〇四八）五六四―三二二三
E-mail:millea-hoken@tajimaagencyco.jp
URL.:http//www.tajimaagency.co.jp

行田セレモニー㈱ヨコカワ
代表取締役　横川福治
〒361-0073 埼玉県行田市行田一―一―三三
電話 〇四八―五五六―一二一五八

小山商事株式会社
会長　小山博
〒361-0025 埼玉県行田市大字埼玉三三五一
TEL（〇四八）五五九―四一二一（代）
FAX（〇四八）五五九―二五五〇

開山慶長十一年
水戸黄門様ご宿泊のお寺
曹洞宗　龍淵山祥雲寺
住職　大西義道
〒300-0744 茨城県稲敷市押砂九三二
電話 〇二九九（七九）〇〇六四
FAX
携帯 〇九〇（八六四二）四四三一

清善寺住職
松本皓一
〒361-0077 埼玉県行田市忍二―八―十八
電話 〇四八―五五六―三六八九

三共印刷株式会社
代表取締役　大谷純一
埼玉県行田市富士見町二―一―三〇
TEL 〇四八―五五六―六二〇一

行田市の現勢

平成二十三年十一月一日

1 市役所所在地
〒三六一－八六〇一
埼玉県行田市本丸二番五号
TEL〇四八－五五六－一一一一
FAX〇四八－五五六－一一七六六

2 市制施行
昭和二十四年五月三日

3 面　積
六、七三七㎢

4 人　口
八五、七八六人

5 世帯数
三二、六一三世帯

6 財　政
二四五、三億円
（当初予算）

7 市の機構
市　長　工　藤　正　司
副市長　山　﨑　明　弘
委員長　岸　田　昌　久
教育長　丸　山　綱　男

8 教育委員会

10 議　会
議員定数　二十四名　（無所属十七、公明三、日本共産党二）
議　長　吉　田　幸　一
副議長　平　社　輝　男

11 学　校
大学　一校
専門学校　一校
高等学校　一校
中学校　八校
小学校　十六校

12 都市宣言
環境衛生都市宣言
人権尊重都市宣言
平和都市宣言
青色申告の都市宣言
交通安全都市宣言
暴走族追放都市宣言
非核平和都市宣言

13 まちづくりの目標
水と緑　個性あふれる文化都市

14 産業経済
製造品出荷額　三、二八一億円
（平成十九年）
商品販売額　二、一七七億円
農業粗生産額　四十八億円
（平成十八年）
商店数　九二九店舗
工業事業所数　二五四事業所
（四人以上・平成十九年）

15 公共施設
さきたま史跡の博物館
教育文化センター
郷土博物館　忍城御三階櫓
産業文化会館・はにわ館
総合体育館・総合公園プール
市民プール・総合公園野球場
資料館・公民館（十六館）
図書館・古代蓮会館
総合福祉会館・商工センター

17 観光地
風土記の丘さきたま古墳公園
忍城址公園（忍城御三階櫓）
古代蓮の里公園
行田市郷土博物館・利根大堰
水城公園・東照宮

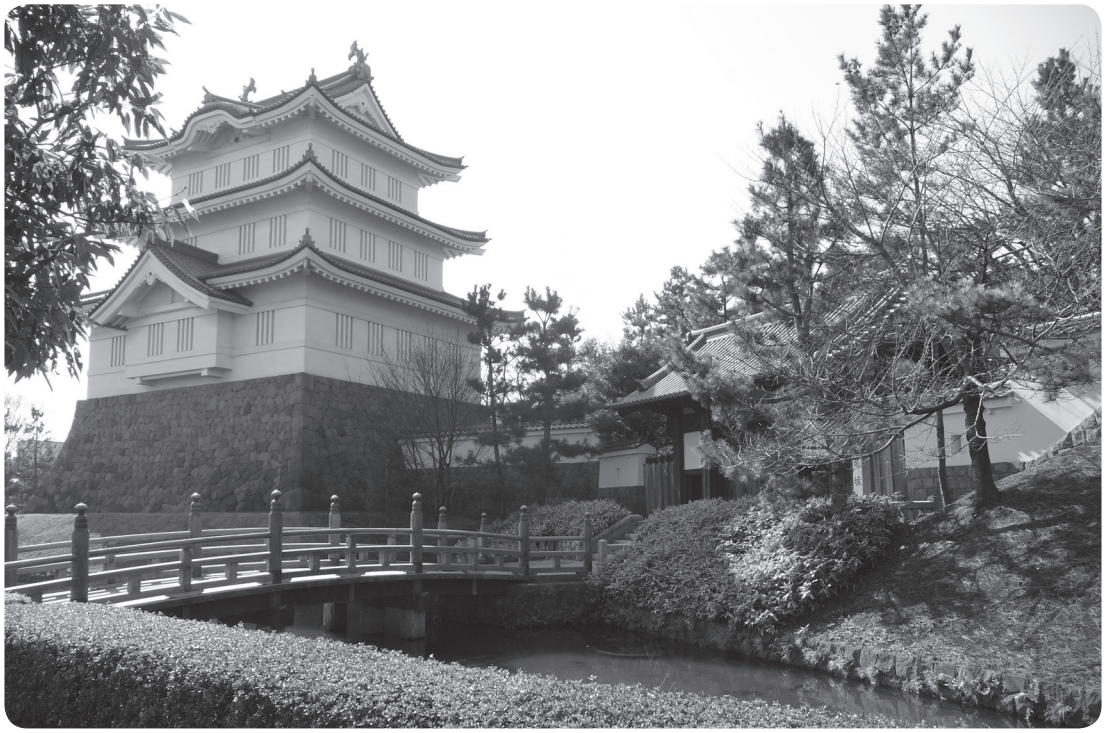
編集後記

今年も色々な事があった。毎回その年のことを思い出しながら書いているが、今年の出来事は忘れられそうにない！

特に三月十一日二時四十六分ごろに起こった東日本大震災は大きな津波によって東日本の太平洋側の多くの都市に壊滅的な災害をもたらした。また輪をかけておきた福島原子力発電所の爆発事故は、それまでの安全神話を根底から覆す事故となり、いまだその解決の結論も見えてきていない。自然の脅威に恐れをなし、人間の力のなさをまざまざと見せ付けられ、一方で近代科学技術の集積が、諸々の問題を安易に据え置いてしまった結果、もろくも崩れ去り過去にない人災を起こしてしまった。

人類は過去の経験や現象を基に多くの事に対処してきた筈であったが、今回の災害と事故は「想定外」といった言葉で片付けてしまって良いのだろうか？今年も忍郷友会は素読教室を開催している。多くの賢人の残した教えを素読し覚えることは、その教えを心の中に埋め込んで自分の体の一部にすることである。その教えには「想定外」という言葉はないはずである。

広報委員長
黒渕　陽夫



発行者　財団法人　忍郷友会　会長　松平忠昌
事務局　埼玉県行田市行田五－一〇
（十万石スリーハートビル３Ｆ）
ＴＥＬ．〇四八－五五六－九〇〇〇
ＦＡＸ．〇四八－五五六－九〇〇七
URL/www.oshi-goyukai.or.jp
e-mail/gyouda@oshi-goyukai.or.jp
印　刷　三共印刷株式会社
〒三六一－〇〇二一
埼玉県行田市富士見町二－一－三〇
ＴＥＬ．〇四八－五五六－六二〇一
ＦＡＸ．〇四八－五五六－六二〇四